

益益 米沢有為会々誌
公社団法人

復刊第74号 令和6年12月

米沢有為会



農林水産大臣登録第26号



登録商標第1457084号



米沢牛販売店

日本橋 日 山

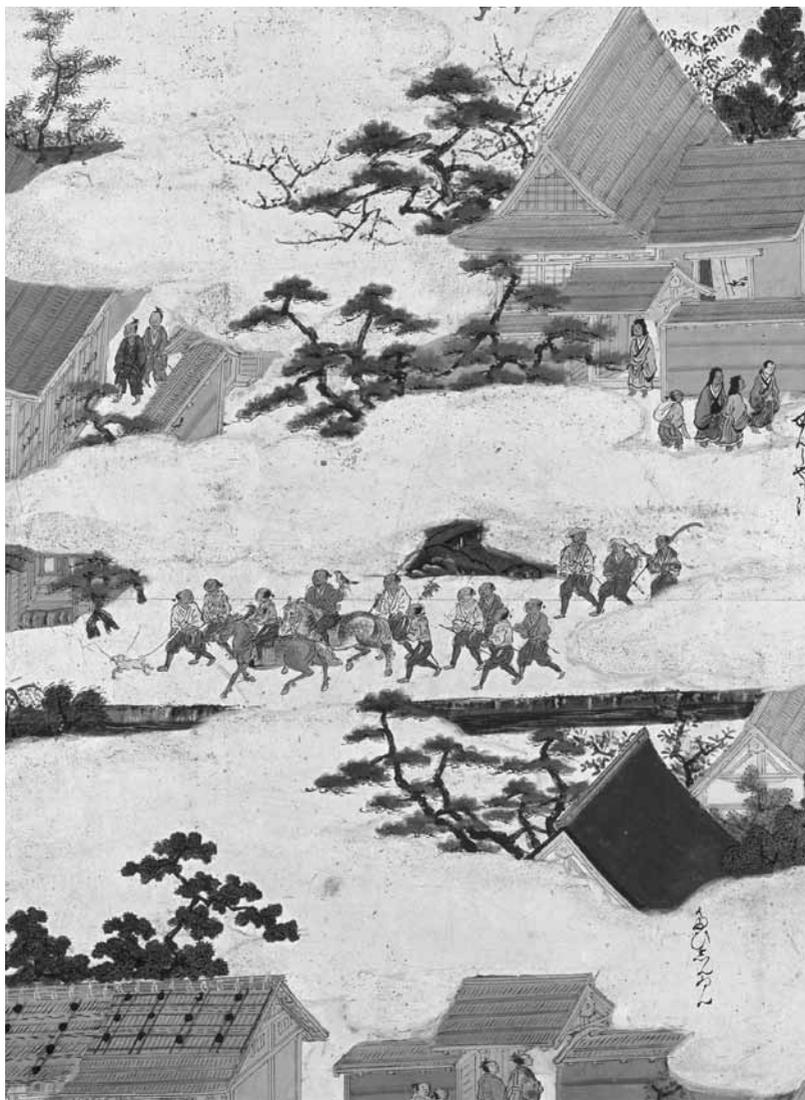
- | | |
|-------------------------|--|
| 日本橋 日 山 本 店 | 中央区日本橋人形町2-5-1
TEL 03 (3666) 5257 |
| すき焼き割烹 日 山
(予約が必要です) | 中央区日本橋人形町2-5-1
TEL 03 (3666) 2901 |
| 日 山 亀 戸 店 | 江東区亀戸5-1-1 亀戸駅ビルアトレ内B1
TEL 03 (3638) 1129 |
| 日 山 大丸東京店 | 千代田区丸の内1-9-1 大丸東京店内B1F
TEL 03 (3211) 2901 |

米沢牛銘柄推進協議会
山形おきたま農業協同組合

米沢牛出荷組合

益人益社 米沢有為会々誌

復刊第74号



国宝上杉本洛中洛外図屏風 左隻2扇中程の場面

〔表紙について〕

米沢市（上杉博物館）所蔵



↑
表紙は左隻2扇中程の場面です。
〈タテ 160.4cm、ヨコ 365.2cm〉

国宝 上杉本洛中洛外図屏風

この屏風は、天正12（1574）年に織田信長が上杉謙信に送ったと伝えられるもので、狩野永徳の作とされる。京の市街地（洛中）と郊外（洛外）を高い視点から描いている。描かれている人物は2,400人を超えており、当時京の人口は10万人と言われているので、約40人に1人の割合で描かれている。京都の町の一人一人が活気にあふれている様子が見える。一人として同じ格好の人はいない。

この屏風は平成7（1995）年国宝となり、上杉家文書が平成13（2001）年国宝となり、米沢に国宝が2点ある。

この切り取った場面は鷹狩の一行が西洞院にしのだういん通りを進む一団である。馬に乗り、左手に鷹を据えた人物がこの一行の主人であろう。後に獲物の鳥が串刺にして運ばれており、その後に予備の鷹1羽も描かれている。先頭には犬がいる。鷹は將軍への献上品として重宝されていたとのことである（上杉氏と鷹と馬展より）。

目次

扉	1
御挨拶	4
転機を迎えた育英事業	6
本部活動報告	8
第十一(通算一三七)回定時総会報告	8
文化講演会	11
公益社団法人米沢有為会	18
本部各部門の主要活動報告	29
アップデートのタイミング	30
奨学生だより	31
支部だより	31
東京支部	31
米沢支部	33
仙台支部	36
北海道支部	38
興譲館寮だより	39
東京興譲館	39
仙台興譲館	41
新入寮生・奨学生募集ポスター	43
我妻榮記念館だより	45
米沢有為会文化大学	47
第三十五回「米沢における戦後英語教育の実践 「米沢英語研究懇話会の活動を通じて」手塚宮雄氏	47

置賜市町だより	49
米沢市	49
長井市	52
南陽市	55
高畠町	58
川西町	60
小国町	63
白鷹町	66
飯豊町	68
高校生小論文コンテスト	71
会員の広場	87
郷土の紹介	88
法人賛助会員名簿	91
公益社団法人米沢有為会役員名簿	93
公益社団法人米沢有為会組織一覧図	97
本部・各支部事務所等所在地	98
米沢有為会からのお願い	99
置賜地区自治体所在地	99
後記	100
広告掲載企業一覧	101
広告	102



御挨拶

名誉会長 上杉邦憲

『米沢有為会々誌』第七十四号の発刊にあたり、一言御挨拶申し上げます。

昨年、地球「温暖化」ではなく「沸騰化」と言われ始めたところですが、今年の夏は各地で猛暑日が続き、十月になっても真夏日があるなど、日本は四季ではなく、夏と冬の二季になったという話すら出る昨今ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。七月二十五日に山形県を襲った未曾有の大雨は、特に庄内地方に甚大な被害をもたらしました。不幸中の幸いで（と言うのも憚られますが）、置賜地方に大きな被害はなかったようです。会員の皆様やご親族、ご友人で被害に遭われた方はいらっしやなかったでしょうか。改めて心よりお見舞い申し上げます。

このような異常気象（既に通常気象？）の中、去る六月二十二日（土）に米沢市の伝国の杜で開催された第十一（通算一三七）回定時総会において、令和五年度事業・業務の報告と令和六年度の事業・業務計画が決定され、理事、役員の皆様と会員諸氏のご尽

力により米沢有為会の活動が着実に進められていることに敬意を表します。総会の後、スポーツ及び文化活動において全国レベルで活躍した小・中・高校生に対する特別顕彰が行われ、置賜の地から若い力が育っているのを実感することが出来ました。

また、今年も置賜地区高校二年生を対象に、「人口減少社会の中でも持続可能な地域とするため地域の未来と私の生き方を考える」をテーマにした小論文コンテストが行われ、十月末には優秀作品が決定していると思います。毎年置賜地区高校のご協力で数多くの小論文が寄せられていることは有為会にとっても非常に意義のあることで、今後ますますこのコンテストが盛んになることを期待しています。

一方、コロナ後の生活スタイルや社会環境の変化の影響もあってか、東京興讓館寮への入寮者の激減や奨学金応募者がゼロといった状況が生じており、育英事業という有為会の根幹を揺るがしかねない事態となっています。東京の大学へ進学予定の高校生への積極的勧誘やYouTubeやケーブルテレビ等を通じてのPRなどで入寮者が増え、マスコミに取り上げられたユニークで素晴らしい東京興讓館寮での生活をエンジョイしてほしいものです。

最後になりましたが、理事、役員の皆様、我妻記念館や興讓館寮の運営に携わっておられる方々、そして会員とご家族皆々様の今後ますますのご健勝と弥栄を心よりお祈り申し上げます、御挨拶いたします。



転機を迎えた育英事業

米沢有為会会長 平 山 英 三

令和六年十月に米沢で行われた第七回高校生小論文コンテスト表彰式の後、五年ぶりに米沢支部の交流芋煮会が開催され、私も参加させていただきました。米沢支部の会員の方々と本場の芋煮を味わいながら楽しい交流のひとつをもちました。

その席上、来年の奨学生募集に応募者のなかったことが報告されました。二年続けての応募者なしです。日本学生支援機構の奨学金は給付型の拡充など改善が進み、当会も給付型の導入とその財源確保が検討課題となってきました。公益社団法人移行の際に、奨学生OB会の熱心な取り組みもあって、奨学金制度検討委員会を設け、給付型の導入を検討しましたが、多額の財源を寄附で集めることが難しいとの判断から見送りました。

学生寮入寮希望者の減少も重い課題です。今年四月の東京興譲館入寮者は在京会員の子弟一名のみで、置賜地方からの入寮者はありませんでした。各高校の保護者進学説明会に担当理事を派遣したり、専門家作成の寮生活ビデオをYouTubeで発信し、これを置賜地区のケーブルテレビで六十日にわたって何度も放映しましたが、いずれも功を奏しませんでした。

今後、学生寮の役割の再検討とあわせて築五十八年の老朽化した東京寮建物を改築するか、土地を売却して移転するのか、資金の手当てをどうするかなど抜本的な検討を進め

ます。場合によっては閉寮も視野に入ってくるでしょう。

創立百三十周年活動ビジョンで男女共同活躍の促進を取り上げた東京寮への女子学生受け入れは、首都圏にあるいくつかの男女共住学生寮の訪問調査からスタートしました。興譲館寮のような自主寮の例はなく、男女の寮監・寮母が常駐していました。当会の現状では、学生寮を責任をもって管理運営する複数の常駐職員の配置は困難であり、常駐職員不在を補完する方法も難しいことから、女子受け入れは断念せざるを得ませんでした。

新公益法人制度改革は十六年になります。公益認定を受けるためには公益性とガバナンスが必要です。「公益性」の基準は①公益目的事業比率②収支相償③遊休資産の保有制限で、これらをクリアし、十一年前に公益社団法人に移行できました。しかし、「ガバナンス」については、組織体制や財政基盤が十分に整っているのか不安があります。当会の業務も複雑さを増し、従来のボランティアによる運営だけでは十分といえず、有給のスタッフによる責任体制の整備を進めています。

今年の定時総会では、これまでの理事の役割分担のほかに昨年の定時総会で増加した理事の選任を行い、北海道支部長と地方在住の法律の専門家が就任しました。従来からの担当理事同様それぞれの担当課題に寄与いただけるものと期待しています。現在の理事会はズームによるリモート会議ですが、コロナの状況によってはリアルの会議も行いたいと思っています。

財務担当理事は今回も適任者を得ることができませんでした。会計事務所の指導と助力を得て総務部内で何とか処理していますが、できるだけ早く適任者を得たいと願っています。

難しい課題は山積みですが皆さんのご理解とご協力が欠かせません。また、ご提案やご意見をお待ちしています。よろしくお願いいたします。

本部活動報告

定時総会及び付帯催事に関する報告

一、定時総会（第十一回、通算一三七回）の報告

公益社団法人米沢有為会の第十一回（通算一三七回）定時総会は、令和六年六月二十二日（土）十四時より、米沢市伝国の杜大会議室にて開催されました。

議案審議に先立ち、名誉会長上杉邦憲様よりご挨拶をいただき、また、米沢市長近藤洋介様より米沢支部長就任ならびに米沢有為会の活動に期待を込めたご挨拶をいただきました。

総会は、定款第十七条の規定により、平山英三会長が議長となり、開会を宣言しました。初めに、有効出席者数について、令和六年六月一日現在の正会員数二二六名、当日出席正会員数二十五名及び出席者を含む議決権行使書提出者数は一四三名、議決権行使書の無効は〇名、従って有効出席者数の割合は過半数の六十三・三％であり、定款第十九条の規定により本総会は成立している旨、五雲寺卓総務部長より報告がありました。これを受け、議長が議事録作成を事務局に指示し、議事に入りました。

第一号議案 令和五年度事業・業務報告（報告案件）

配布の米沢有為会会報（以下「議案書」という。）記載の「令和五年度事業・業務報告」に沿って五雲寺卓総務部長が説明し報告しました。

第二号議案 令和五年度決算及び監査報告（決議案件）

議案書掲載の「令和五年度決算報告」に沿って五雲寺卓総務部長より貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録の詳細な説明があり、その後、近野久左工門監事より監査報告があり、採決の結果全会一致で承認されました。

第三号議案 令和六年度事業・業務計画（報告案件）

議案書掲載の「令和六年度事業・業務計画」について五雲寺卓総務部長より説明がありました。

第四号議案 令和六年度正味財産増減予算（報告案件）

議案書掲載の「令和六年度正味財産増減予算」に沿って五雲寺卓総務部長より説明がありました。

第五号議案 理事・監事選任（決議案件）

議長の平山英三会長から役員選考委員会による選考過程と選考結果ならびに候補者の略歴について説明があり

ました。質疑の後、議長が夫々の理事候補者三名について賛否の採択を行ったところ、候補者全員が賛成多数で選任されました。また三人全員理事就任を受諾しました。

【就任理事】 鈴木 浩美、田村 邦夫、土屋 宏
就任理事の略歴は次の通りです。

鈴木 浩美 昭和四十六年米沢興譲館高校卒、元佐賀地方・家庭裁判所所長、元福岡高等裁判所部
総括判事、九州リーガル・クリニック法律
事務所・弁護士、東京興譲館OB

田村 邦夫 昭和四十年米沢興譲館高校卒、昭和五十四年（株）日建社 代表取締役、米沢有為会
北海道支部長

土屋 宏 昭和五十二年米沢興譲館高校卒、元米沢市
立小学校校長、米沢市教育委員会教育指導
部長、前米沢市教育長、我妻榮記念館館長、
東京興譲館OB

二、特別顕彰の表彰式

令和六年度の特別顕彰の表彰状伝達式が六月二十二日（土）米沢市の伝国の杜において行われ、上杉邦憲名誉会長から受賞者に賞状と記念品が授与されました。

今年度の特別顕彰は優秀賞三個人、奨励賞二団体一個

人に行われました。なお、教育文化功労者及び産業功労者の該当者はいませんでした。

（以下、学校・学年は令和五年度のものです。）

○特別顕彰 スポーツ活動

（優秀賞）（個人）

▼殿岡凛太郎さん（米沢中央高等学校三年）

【陸上】 令和五年度全国高等学校総合体育大会陸上競技大会・秩父宮賜杯第七十六回全国高等学校陸上競技対校選手権大会 男子走幅跳 第一位

▼高橋杏奈さん（山形県立南陽高等学校三年）

【ライフル射撃】 二〇二三年度JOCジュニアオリンピック兼第三十四回ISSFジュニアライフル射撃競技選手権大会チーム・ピストル少年女子六十発競技 第一位

（奨励賞）（団体）

▼米沢興譲館高等学校フエンシング部男子（山形県立米沢興譲館高等学校）

【フエンシング】 第四十八回全国高等学校選抜フエンシング大会 男子エベ団体 第三位

▼川西・米沢二中合同男子ホッケー部（川西町立川西中学校、米沢市立米沢第二中学校）

【ホッケー】 JOCジュニアオリンピックカップ第

五十三回全日本中学生ホッケー選手権大会 第三位

○特別顕彰 文化活動

〔優秀賞〕（個人）

▼舟山留愛さん（山形県立小国高等学校三年）

〔作文〕 警察庁主催令和五年度「大切な命を守る」全国
中学・高校生作文コンクール 国務大臣・国家公安委員
会委員長賞

〔奨励賞〕（個人）

▼佐藤聖悟さん（川西町立小松小学校一年）

〔感想画〕（公社） 全国学校図書館協議会・毎日新聞社・
実施 都道府県図書館協議会主催 第三十五回読書感想
画中央コンクール 小学校低学年の部優秀賞



優秀賞（ライフル射撃）
高橋杏奈さん



令和6年度特別顕彰 受賞者と役員

米沢有為会総会文化講演会

開催日 令和六年六月二十二日(土)

会場 伝国の杜 二階 大会議室

講師 上杉邦憲氏

宇宙航空研究開発機構(JAXA)名誉教授
公益社団法人米沢有為会 名誉会長

〔講師略歴〕

昭和十八(一九四三)年生まれ。同四十三(六八)年東京大学大学院工学系研究科航空工学専修修士課程修了、同大学付属宇宙航空研究所助手。五十二(七七)年同大学より工学博士号授与。翌年同研究所助教授。五十五(八〇)(八一)年米国NASA・カリフォルニア工科大学ジェット推進研究所研究員。ハレー彗星探査機「さきがけ」「すいせい」(八五年打ち上げ)プロジェクト・エンジニア。平成二(九〇)年文部省宇宙科学研究所教授、二重月リングバイ・月オービター及び月面到達を実現した工学実験衛星「ひてん」(九〇年打ち上げ)プロジェクト・マネージャー。同十五(二〇〇三)年(独)宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所本部教授、小惑星探査機「はやぶさ」プログラム・エグゼクティブ。二十(〇八)年退職。二十四(一二)年国際宇宙連盟より「Alan・D・エミール賞」受賞。令和五(二三)年同連盟より「Hall of Fame」賞受賞(殿堂入り)。現在(NPO法人)北海道宇宙科学技術創成センター理事長、(公益財団法人)米沢上杉文化振興財団名誉会長。

演題 宇宙とともに六十年 そして未来へ

はじめに

皆さん、こんにちは。ご丁寧なご紹介ありがとうございます。昨年私は国際宇宙航行連盟から「Hall of Fame」賞を受賞し、殿堂入りという大変な榮譽をいただきました。今年の五月米沢で祝賀会を開催していただいた時には、米沢有為会の皆様にも大変お世話に



なりました。改めて篤く御礼申し上げます。

今私たちは、大谷翔平選手(米大リーグ、ロサンゼルス・ドジャース)の信じられないような活躍を毎日のようにリアルタイムで(実際には約一秒遅れで)自宅のテレビで見えますが、これは日米間の太平洋上三万六千km上空に打ち上げられている静止衛星を通して、鮮明な画像を目の当たりにしているというすごいことなのです。現在はそういう時代になりましたが、米国が打ち上げた通信衛星により世界最初のテレビジョン及

び電話の衛星中継に成功したのは一九六二年でした。翌六三年十一月二十二日夜、日米間初のテレビ中継放送が始まったのですが、奇しくもジョン・F・ケネディ大統領が暗殺されたというニュースが飛び込んできて、劇的な放送開始となりました。

さて、六十年前の一九六四年（昭和三十年）、私が東京大学工学部航空学科宇宙コースに進学した時、日本は糸川英夫（一九一二〜一九九）の下で「人工衛星計画」（#1）を始

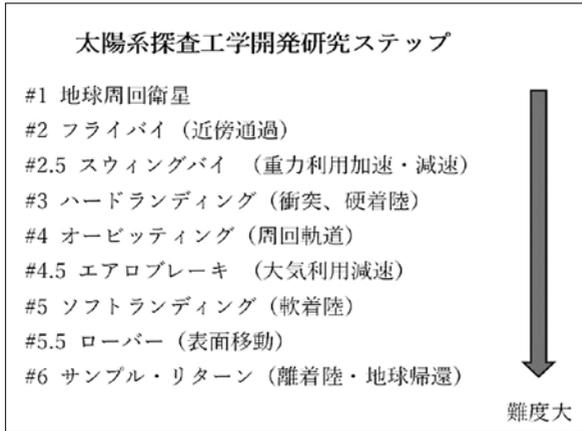


図1

めていましたが、一九六六年（昭和四十一年）私は彼の所属する東京大学付属宇宙航空研究所に入りました。以来、(図1に示したような) #1から#6に至る日本の宇宙工学技術開発研究と共に歩んできました。今日は日本と世界の宇宙開発の流れとびったり重なっている私の六十年間の歩みを回顧させていただきます。

少し遡って、私が宇宙に興味を抱いたのは一九五三年、十歳の時でした。カバヤ製菓のキャラメルを何個か買うと、おまけに「カバヤ児童文庫」から好きな本を一冊もらえたので、「月世界探検旅行」を選んで、月旅行ができるのかと思ったものでした。

#1 地球周回衛星への道のり

糸川英夫は戦前戦闘機「はやぶさ」の設計者でしたが、戦後航空研究は禁止されていました。ようやく一九五二年に解除されると、これからは飛行機ではなく、宇宙の時代だと思っ、彼はロケット研究に打ち込みました。当初ペンシルロケットやベビーロケットといった小さなロケットから始めながら、その頃既に日本ロケット協会を作ったり、国際宇宙科学技術学会を開催し、日米間をロケットで三十分で繋ぐと言っ、活動意欲旺盛でした。私は彼の研究室で厳しく指導されました。

一九六二年九月、ケネディ大統領は「十年以内に米国は月へ宇宙飛行士を送り帰還させる（アポロ計画）。それが容易ではなく困難であるがゆえに」という有名な演説をしています。これはまさに上杉鷹山公の「為せば成る」と相通じるものがありました。

私は一九六六年東大宇宙航空研究所でロケット開発研究に参加しましたが、その頃、日本は「人工衛星計画」を進めており、鹿児島県大隅半島の内の浦でラムダロケットの打ち上げ実験を重ねていました。しかし、六六年の一号機から六九年の四号機まで失敗しました。この頃、米国ではアポロ計画が進展中で、六九年七月二十日（鷹山公の誕生日ですが）、アポロ十一号に宇宙飛行士三名を搭乗させ、二名が月面着陸していました。そして、同年十一月十九日、日本ではL-4S-5（五号機）の打ち上げ準備中でしたが、ふと月を見上げると赤く見える満月で、この時既にアポロ十二号が月面に着陸して飛行士が歩いていたのです。そしてこのL-4S型五号機が、七〇年二月十一日、ついに打ち上げに成功し、日本で最初の人工衛星を地球周回軌道に送ったのです。この人工衛星は「おおすみ」と命名されました。

その後、私は八〇年十二月から八一年十二月まで、カリフォルニア州パサデナのNASAジェット推進研究所

探査機開発部で太陽系探査機の開発研究をさせていたただきました。妻や息子、娘と共に一年間貴重な体験でした。

#2 フライバイ（近傍通過）した「さきがけ」と「すいせい」

一九八六年はハレー彗星が七十六年ぶりに地球に回帰する年でした。その前は一九一〇年で、地球に大接近したので世界中が大騒ぎとなりましたが、今回この絶好の観測の機会を逃す手はないと、八〇年代から開発していたハレー彗星探査機「さきがけ」と「すいせい」を八五年に打ち上げて、駒場深宇宙管制センターでの運用と管制により、ハレー彗星の核の手前約十萬km（すいせい）、数百万km（さきがけ）のところを通過するという日本初の太陽系探査機ミッションを果たし、欧・米・ソ連と協力して多くの成果を上げました。その時一緒に仕事をしたのが、川口淳一郎助手（当時）やNASAゴダード宇宙飛行センターのロバート・ファーカー博士（通称「軌道の魔術師」）でした。この成功後、ローマ法王に謁見する貴重な機会に恵まれました。

#2.5 二重月スウィングバイ（重力利用加速・減速）の実験「ひてん」

次の太陽系探査工学開発研究ステップとしての、スウ

イングバイ（重力利用加速・減速）ですが、一九九〇年一月打ち上げた工学実験衛星「ひてん」は、一回のスウィングバイだけでなく、月の重力を使い軌道を大きくしたり減速して小さくしたり、何度も軌道を変える二重月スウィングバイに世界で初めて成功しました。

#4.5 エアロブレーキ（大気利用減速）

約一年にわたり所定の八回の月スウィングバイを終えた「ひてん」は、一九九一年三月惑星の大気を使って減速をするエアロブレーキ実験にも世界で初めて成功しました。月の向こうから地球上層大気を予定した高度で通過して、理論値と殆んど変わらない減速を燃料を使わずに達成、米国の情報誌にエアロブレーキ技術は「空想から現実になつたと書かれました。

#4 オービッティング（周回軌道投入）の成功：「はごろも」と「ひてん」

「ひてん」の第一回月スウィングバイ直前、「ひてん」から切り離された孫衛星「はごろも」が月周回軌道に入り、さらに合計九回のスウィングバイを行った「ひてん」は、最後に軌道を遠くまで持つていき、太陽、地球、月の重力の影響でふらふらしながら月に捕まえてもらうよ

うな状態で月周回軌道に入る実験をしました。

#3 ハードランディング（衝突、硬着陸）の成功：「ひてん」

なぜこのような実験を行ったかという点、一九二六年世界初の液体ロケット実験を行ったロバート・ゴダード（米国ロケット研究者一八八二—一九四五）が二〇年の論文『高々度に達する方法』で、ロケットは真空の宇宙空間でも推進できると主張したことに対し、ニューヨーク・タイムズ紙は、物質が存在しない真空中ではロケットが飛行できないことを「誰でも知っている」とし、ゴダードが「高校で習う知識を持っていないようだ」と酷評しました（Wikipediaより）。これに対し、ゴダードは「月にフラッシュ（光るもの）を積んだロケットをぶつければ、それを見た人はロケットが真空中を飛べることを理解するだろう」と述べました（ゴダードの夢）。その後、アポロ十一号が月に着陸するに及んで、やっとニューヨーク・タイムズ紙は「その記事が間違っていた」とゴダードの遺族にお詫びしたそうです。実は、私たちは九三年四月十一日、「ひてん」を月につけました。肉眼では見えませんが、オーストラリアにある英国国立天文台がその瞬間を写真に撮っていてくれました。私たちはゴダードの夢が実現したのだと喜びまし

た。しかし、某新聞は三日後夕刊で「ひてん寿命が尽きて、月に落下」と報じました。実は、六六年ソ連のルナ九号と米国のサーベイヤー一号の月面着陸以来、日本が世界で三番目の月到達を果たしたのですが、朝刊一面記事ではなく、夕刊の三面べた記事だったのにはがっかりしました。なお、「ひてん」は、地球の磁気圏の尾部を観測する科学衛星（「ジオテイル」）のために必要な二重月スウィングバイ技術を実証するための工学実験衛星でもありました。

#2.5 二重月スウィングバイ技術の実用化「ジオテイル」

一九八三年頃から国際太陽地球物理観測（ISTP）計画が始まり、日米間で検討会議が進められ、米国がロケット（DELTAA-II）を、日本が衛星（ジオテイル）を担当することになりました。この計画は日米初の大型科学衛星観測計画として実を結び、ついに九二年七月二十日（または鷹山公の誕生日ですが）DELTAA-II 212号機にジオテイルが搭載され、二十三日（NASA責任者サイズモア氏と私で）打ち上げ承認の調印をして、二十四日打ち上げ成功。磁気圏尾部観測衛星（ジオテイル）が十三回の月スウィングバイを行いながら、何と三十年間にわたり、地球周辺の空間で直接観測を行うこ

とができました。

#5 ソフトランディング（軟着陸）と#6 サンプルリターン（離着陸・地球帰還）「はやぶさ」

そして、いよいよ小惑星サンプルリターン計画への挑戦です。一九八八年の検討開始から七年後の九五年宇宙開発委員会によって承認され、九六年計画実行が開始されました。なぜ小惑星へ行くのか。それは小惑星にはほとんど重力がない（地球の重力の約千万分の一程度）ので、探査機が着陸、サンプルを採取して離陸するのは、エネルギー的には#1フライバイと殆んど変わらないからです。一方、火星の重力は地球の三分の一と大きいので、火星に離着陸するには大きなエネルギーが必要になるため、今まで火星からサンプルを持ち帰った例は世界にありません。月は近いし、重力が地球の六分の一ですから何とか持ち帰ることができなくはないですが、それでも巨大なロケットが必要です。しかし、小惑星の場合は普通の探査機を送り込んで、サンプルを採って帰ってくることで済むのです。

そして二〇〇三年五月九日、鹿児島県内之浦宇宙センターから小惑星イトカワに向けて世界初のサンプルリターンを目指す探査機「はやぶさ」が打ち上げられました

た。この歴史的瞬間に私は母、妻、娘夫婦、孫二名を招いて、橋の渡り初めにあるように親子四代で立ち会いました。「はやぶさ」が帰ってきたのは二〇一〇年六月十三日でしたので、既に私は退官していました(二〇〇八年)。そこで、やはり引退した「はやぶさ」の仲間二人と一緒にオーストラリアの砂漠で探査機が帰還するのを見ました。その約一か月後、山形新聞の取材を受けた時、「はやぶさ」がくれた誇りと感動(奇跡呼んだ『なせばなる』)と題した記事の中で、私は(「はやぶさ」の打ち上げは)「無謀ではない。それまでの経験から、やっでできないことはないという信念があった」と述べました。これはまさに上杉鷹山公の「為せば成る 為さねば成らぬ なにごとも 成らぬは人の 為さぬなりけり」と相通じることでした。そして、キャロライン・ケネディ駐日アメリカ大使が、二〇一四年九月二十七日米沢市を訪問された際、伝国の杜で父の元ケネディ大統領が鷹山公を尊敬していたと話し、「なせばなる」と日本語で言われましたが、私は十一月米国大使館に招かれてキャロライン大使と再会しました。鷹山公と宇宙を繋いでくださったことを嬉しく思った次第です。

栄誉の受賞

私はこれまでいろいろな賞をいただきましたが、中でも一番嬉しかったのは、二〇一一年五月十一日米宇宙協会から受賞したウエルナー・フォン・ブラウン賞でした。彼は世界的に「ロケットの父」と言われ、アポロ計画を推進した人です。受賞の時川口淳一郎先生と一緒に参りましたが、私はそのために作っていたいた米織の紋付羽織袴姿でした。また、昨年「Hall of Fame」賞を受賞して国際宇宙航行連盟の殿堂入りをさせていたいた時は、会場のアゼルバイジャンの政情が不安定でしたので、代理の方に行っていたきました。その会場に掲げられた私の写真は、米沢の友人故鈴木秀さんに撮ってもらったものでした。私の宇宙航空開発研究に関わる六十年の人生は、このような形で締めくくらせていただきました。

有人探査の目的は？

最後に、有人探査の目的について考えてみますと、例えば火星に人間はまだ行っていませんが、火星には何のために行くのかを考えるべきだと思います。また、「中国が有人宇宙計画をやるのに、日本は何故しないのか」「日本の宇宙開発技術は中国より劣っているのか」「宇宙

探査で中国に負けぬよう日本の存在感を示せ」などということをよく聞きますが、これまで或いはこれからの有人探査（月、火星）の目的は依然として単なる国威発揚のためではないでしょうか？しかし、「はやぶさ」の帰還のように無人探査でも存在感は示せます。火星にも、月にも、人は定住などできません。空気も水もありませんし、放射線が降り注ぎますから。南極に人は行きますが、定住してはいない。ゴビ砂漠やサハラ砂漠にも定住者はいないと言ってよいでしょう。では、将来的に有人探査の目的をどう考えるべきか。無人探査では得られない成果を上げることが肝要でしょう。

では、これから何をすればよいか。一例を挙げると、回転する円筒形の宇宙ホテル内部を想像してみてください。壁際は一g、中心部は無重量なので、自由に飛び回ったり、大きな水玉に入ったり、プールの上に漂ったりと、こんな宇宙ホテルで短期間過ごせたら楽しいでしょうね。米国では一九六八年に「2001: a space odyssey」(『二〇〇一年宇宙の旅』)という叙事的SF映画が製作されましたが、これからはこういう地球上ではできないことを誰もが宇宙で楽しむということに力を注いでほしいですね。日本でも「宇宙ホテル構想」が考えられたことがあります。例えば、月のホテルへ新婚旅行！これ

が本当のハネ・ムーンですね。でも、ホテルの従業員は放射線被ばく量の制限から宇宙に最長でも一年ぐらいしか暮らせません。現在の宇宙飛行士でも同じです。一般のお客さんならせいぜい一週間でしょうから、宇宙で楽しく過ごせればよいでしょうね。現在、私もそんな事業に繋がればよいなど思っており、北海道航空宇宙多目的飛行センターで飛行機に対する空港と同じような、宇宙機に対する宇宙港「北海道スペースポート」を実現するための計画に取り組んでいます。

ご清聴ありがとうございました。(拍手)



◎本部各部門の主要活動報告

○総務部

昨年引き続き今年も定時総会を米沢市の伝国の杜で開催しましたが、多くの会員が全国各地から集まり、活発な議論を交わしました。また理事会は、今年新たに札幌と福岡にお住いの理事が就任されましたので、従来にも増して時間的、経済的利点の多いリモート会議を踏襲しています。

定時総会開催

第十一（通算一三七）回定時総会は、令和六年六月二十二日（土）米沢市の伝国の杜大会議室で開催されました。総会の議事等は前述のとおりです。

理事会開催

令和五年度は理事・監事が出席し八回の理事会が開催されました。また令和六年度は十一月末現在で四回開催されています。令和五年度理事会の議題は、令和六年六月発行の米沢有為会会報第二十二号（全会員に郵送済み）をご覧ください。

諮問委員会報告

諮問委員さらに名誉会長・名誉会員・相談役各位に対し、「最近の活動状況」報告（会報に掲載）を送付し、五月二十日までに、昨年同様、書面や電子メールでご意見ご指摘をいただきました。

我妻築先生没五十年記念事業の盛会ぶりを評価頂きましたが、ご意見の多くは、奨学金事業と学生寮事業を主とする当会・育英事業への応募の急減ぶりに関するものでした。

奨学金事業に関しては、給付型採用への支持はなく、廃止（学生寮へ資源集中）も含め再検討を求めるとご意見がありました。

学生寮事業に関しては、学生寮の魅力度アップや「寮母による食事提供の維持」を求めるとご意見に対し、アパート型など新たな展開を求めるとご意見がありました。

今後に関しては次のご意見に集約されます。「育英事業こそが公益社団法人を選択した根拠であることを踏まえ、育英事業のあり方、さらにその存続の可否に踏み込んだ真剣な議論を望む。」

財務会計の状況

令和五年六月に財務担当理事が退任し、新たな財務担当理事を東京支部の正会員から公募しましたが、応募者がいないため当面の暫定措置として、総務部長が財務担当理事を兼務することになりました。令和五年度の主な財務会計からの支出は以下のとおりです。

- ① 学生寮への支援活動・東京興譲館寮・仙台興譲館寮運営に合計三八〇万円の支援費を支出しました。
- ② 我妻榮記念事業の募金活動・令和四年十一月から令和五年十月の期間、米沢有為会会員や一般の方、計四〇五名から総額七七三万八千円の寄付が集まり、全額記念事業に支出しました。
- ③ 施設の新築・改修費用の支出・東京興譲館寮、仙台興譲館寮の老朽化対策工事を行い、計四〇六万円を支出しました。また我妻榮記念行事に伴う銅像の建立工事等で三七六万円を支出しました。

○育英事業部

本会の公益事業のなかをなす育英事業（主に学生寮運営事業、奨学金貸与事業）について報告します。

育英事業の募集についてはご案内のように低調な応募

が続いております。このことに対して、諮問委員の皆様を始め多くの方々から、地区内の高校生・保護者に対する周知が不足しているのではないかと指摘を受けました。そこで、昨年度夏からHPの更新はもちろんのこと、ユーチューブを活用した東京および仙台的学生寮の様子の動画制作・放映、地元ケーブルテレビでの二ヶ月間に渡る広告放映や担当理事のテレビ出演など様々な活動を継続して実施しました。もちろん、これまでのように高校の保護者への説明は、今年度に入り五月中旬から七月中旬にかけて米沢興譲館高校、米沢東高校、長井高校を対象として、学校の保護者向け進路説明会の中に若干の時間をいただき実施しました。しかもその際には、育英事業のポスターを縮小し、かつユーチューブに誰もがスマホでアクセス出来るようにとQRコードを付けたカードを配布するなど、より踏み込んだ広報活動に取り組んできました。

奨学金貸与生の報告と課題

奨学金制度の質的向上を目指し、創立百三十周年活動ビジョンに掲げた新奨学金制度を、令和二年四月採用の奨学金募集から実施し、令和七年四月採用の募集は六年

目となりました。その新制度の要点は、男女共同活躍社会の実現を後押しするために貸費型の「女子向け住宅費補助奨学金」（Ⅰ型）、学業を終え郷土に就職して郷土置賜を担う人材の育成を目指す減免型の「地元若者定着奨学金」（Ⅱ型）、そして従来の貸費型の「一般貸費奨学金」（Ⅲ型）の三つのタイプで、より充実した奨学金制度で育英事業を進めております。

しかしながら、昨年度に引き続き今年度も応募者はなく、令和六年十一月二日に置賜総合文化センターで予定していた教育委員による面接を中止し、さらには十一月九日に開催の本部理事会審議も報告のみとなりました。応募者数については、令和四年一名、令和五年三名と近年は少なく経緯してきましたが、その傾向は好転することなく、昨年今年と連続して希望者がおりませんでした。本事業が、全く活用されず、非常に残念な結果となっております。

本会の奨学金制度の基本的構造は、貸与と返還が一体で循環するものとなっておりますが、それを踏まえながらも国の奨学金制度等其他の奨学金制度と比べて優位性が見られるような魅力ある制度設計が期待されるところであり、早急に対応策を構築してゆきたいと考えております。

す。そこで、本部理事会の下部組織として「育成事業部に関する問題対策会議」を立ち上げ、改革に向けた建設的な検討を開始しております。

なお、これまで課題となってきました奨学生の滞納については、該当者との密な連絡を保ちながら返還計画とともに考えるなどの手立てを講じ、総じて順調な返還が進められております。

学生寮入寮生選考の報告と課題

本会が最も力を入れ経営してきた学生寮は、幾多の変遷を経て、現在は東京興讓館寮が京王線沿線の調布市入間町に、仙台興讓館寮が東北大学近くの仙台市青葉区にあります。両寮とも、かつての大部屋を廃止し、ひとり一部屋を実現しております。しかしながら、近年入寮希望者が激減し、空室が目立つようになり、寮経営に黄色信号が灯りつつあります。

そのような中で、令和六年四月の募集定員を東京興讓館寮が十五名程度、仙台興讓館が十名程度を予定しました。そして、募集に関わる情報の周知徹底を図るべく、先述したような動画制作・放映などに加えて、推薦による合格者にも対応できるように、これまでの日時等

指定選考と十一月一日からの新たな随時選考を設定しました。また、受験生が学校に合格を報告した際に、必ず受験生に手交してもらうように縮小版のポスターを作成し、主な受験校に直接持参し依頼しました。

しかしながら、今春の入寮生数は東京興譲館寮にわずかに一名、仙台興譲館寮に三名となり、残念ながら当初考えた大人数の入寮生数は実現できませんでした。その結果、令和六年五月二十九日現在の寮生数は東京が一年生なしの十名（定員二十四名）、仙台は七名（定員十五名）となり、昨年に引き続き、寮運営に支障をきたす恐れが解消されませんでした。このため、必要なら今年度も昨年に引き続き両寮の運営費として本部会計から支援金を繰り入れ、なんとか運営してゆく予定にしております。また、これまでもこのような状況を抜本的に打開するため、昨年度は育英事業部が中心となり、寮問題対策会議及び同パートⅡを開催し、今春からの寮費の値上げを実施し、更に、今年度に入り昨年度未解決となった様々な課題について育英事業部に関わる問題対策会議を開催し、現状と課題、さらには課題解決のための対応策などの検討に着手しております。

また、懸案としておりました、東京興譲館寮に女子学

生を受け入れる事業については、これまでの膨大な時間を費やした検討会議の議事録を読み返ししながら、新たなメンバーによる新たな発想を期待した会議を幾度となく開催しましたが、最終的に断念することに至りました。

さらに、施設の整備については、創立百三十年記念事業として、ほぼ十年ぶりとなる学生寮の大規模改修に段階的に取り組んでいます。東京興譲館寮では、令和二年度に寮室窓サッシュ取り付けや外壁タイル落下防止などの第二段階工事を終了しました。令和三年度は、寝室リフォーム工事と床下の遮音対策、厨房工事、給水工事（給水タンクを廃止し、直接排水方式に切替）等を行っております。令和六年に入り、雨漏りが生じた一階部分の修繕や二階部分の洗面場の改修工事などを実施しました。仙台興譲館寮の改修工事は令和元年度に終了、令和二年度は九月に新寮母が着任し、トイレの改修や不具合箇所（不具合が見つかった排水管のさらなる工事を進めました。令和六年度には冷房装置の全室完備が出来ました。両寮とも多年度にわたる改修工事によって、勉強環境を一層向上させ、安全・安心な施設となっております。

来年度の奨学生および寮生募集要項の概要

令和七年四月採用の奨学生及び寮生募集要項の概要は、別表2のとおりです。有為会会員の皆様には、心当たりの学生さんがおられましたら、是非勧誘・推薦していただければと存じます。

〔別表1〕 令和六年四月採用 奨学金貸与生・学生寮入寮生選考結果

1. 奨学金貸与生：「奨学生だより」（三十ページ）に掲載

2. 学生寮入寮生

① 東京興讓館

	氏名	大学・学部・学科	学年	出身高校・大学	出身地
1	野呂知志	法政大学・文学部・日本文学	2年	川口北高校	さいたま市
2					

② 仙台興讓館

	氏名	大学・学部・学科	学年	出身高校	出身地
1	伊藤功太	仙台リゾートスポーツ専門学校	1年	九里学園高校	川西町
2	高橋未来	東北大学・法学部	1年	長井高校	長井市
3	楊剛	東北大学・工学部・機械知能航空工学科	1年	米沢興讓館高校	米沢市

動画のQRコード



東京興讓館寮動画



仙台興讓館寮動画

(別表2) 令和七年四月採用の育英事業募集要項の概要

詳しくは米沢有為会ホームページ

(<http://www.yonezawa-yuikai.org/>) をご覧下さい。

1. 米沢有為会奨学生の募集要項
当会の奨学金(無利子)は以下の通り三種類あります。

種 類	名 称	募集対象者	定員	貸費額等
I 型 (貸費)	女子向け住居費補助奨学金	大学・大学院への女子進学者で自宅外通学の者	2名	月2万円貸費
II 型 (減免)	地元若者定着奨学金	大学・大学院卒業後3年以上継続して置賜に居住、県内に就業見込みの者	2名	月4万円貸費、うち2万円減免
III 型 (貸費)	一般貸費奨学金	大学・大学院進学者	2名	月4万円貸費
応募資格	<p>置賜地方3市5町の在住者または出身者の子弟で、以下の条件をすべて満たす者</p> <p>(1) 令和7年4月の大学・大学院入学予定者または在学生</p> <p>(2) 健康かつ学業優秀で将来性のある者</p> <p>(3) 経済的理由により就学が困難である者</p>			
奨学金の返還	<p>貸費終了翌年度より、I型及びII型においては月額1万円を、III型においては月額1万5千円を本会に返還する。</p>			

面接選考日・場所	令和6年11月2日(土) 午後1時 置賜総合文化センター(米沢市金池3-1-14)
採用候補者及び決定・通知	令和6年11月に採用候補者を決定し、また、その内の大学又は大学院合格者をもって3月までの理事会で正式に決定し、応募者に通知する。

2. 学生寮入寮生の募集要項

募集は随時選考と日時等指定選考の2通りで実施する。

寮名	東京興讓館	仙台興讓館
所在地	東京都調布市人間町1-36 (新宿駅から35分)	仙台市青葉区角五郎2-6-21 (中心市街地まで約3km)
応募資格	東京及び東京近郊の大学、短大、専門学校及び大学院の在学生、または入学予定者(男子のみ)	仙台市及び仙台近郊の大学、短大、専門学校及び大学院の在学生、または入学予定者(男子のみ)
募集人員	15名程度	10名程度
	以下の条件のいずれかを満たす者 (1) 置賜地域3市5町の在住者または出身者の子弟 (2) 有為会会員1名以上の推薦を受けた者 合格発表前の応募可	

<p>寮費月額（食事代、水道代、光熱費等 全て含む金額）</p>	<p>面接日・場所</p>	<p>面接方法</p>
<p>(1)令和7年度について 朝夕2食付き（ただし土曜・日曜、祝日を除く）、 65,000円 (2)令和8年度以降について 在寮生の人数が減少した場合、食事提供が出来なくなる場合があります。その時には、寮費を減額します。なお、大きな変更があれば、丁寧に説明してゆきます。</p>	<p>△随時選考▽ 令和6年11月1日から令和7年2月28日まで。その都度オンライン面接を行う。 △日時等指定選考▽ 令和7年3月11日、3月24日にオンライン面接を行う。</p>	<p>オンライン（Zoom）による面接を行う。</p>
<p>朝夕2食付き（ただし土曜・日曜、祝日を除く）、 65,000円</p>		



○地域振興部

年次計画に沿って事業活動を行いました。

まず表彰の特別顕彰者については、スポーツ活動の優秀賞は二名、奨励賞は二団体、また、文化活動の優秀賞は一名、奨励賞は一名、計四名二団体に対し表彰が行われました。内容は当誌の本部活動の中で詳しく紹介しております。

また、高等学校卒業生表彰は置賜地区内の高等学校十三校から特に優れた卒業生、各校一名の推薦を受けて表彰しました。表彰については、米沢支部教育部員が各高等学校を訪問し校長に表彰状の伝達をお願いして実施しました。

令和五年度高等学校卒業生表彰

(令和六年二～三月表彰)

郷土の人材育英支援事業の一環として、学業、部活動、生徒会活動等で特に優れた卒業生を表彰しました。受賞者は次の通りです。

- 安齋穂乃花 米沢興譲館高等学校 (米沢市)
- 情野翔 米沢商業高等学校 (米沢市)
- 尾形樹里 米沢工業高等学校 (米沢市)
- 佐藤未莉 米沢東高等学校 (高島町)

- 殿岡稟太郎 米沢中央高等学校 (南陽市)
- 後藤理久 九里学園高等学校 (白鷹町)
- 田中春伍 南陽高等学校 (高島町)
- 杉本真彩 長井高等学校 (飯豊町)
- 齋藤凛音 長井工業高等学校 (白鷹町)
- 手塚捷之 置賜農業高等学校 (飯豊町)
- 高橋遼太 高島高等学校 (高島町)
- 佐藤優太 荒砥高等学校 (白鷹町)
- 舟山留愛 小国高等学校 (小国町)

第七回小論文コンテスト

次に、第七回小論文コンテストは、例年どおり置賜地区の高校二年生を対象として、「人口減少社会の中でも持続可能な地域とするため、地域の未来と私の生き方を考える」をテーマに実施しました。応募総数九十七名でしたが、その中から慎重な審査を経て、最優秀賞一名、優秀賞四名、入選六名の計十一名を表彰しました。併せて、『優秀小論文集』を発行し、各高校や関係団体等へ配付しました。受賞者は次のとおりです。

- 最優秀賞 小国高等学校 染谷柚乃

優秀賞

学園都市推進協議会会長賞

小国高等学校

井手 吾南

米沢商工会議所会頭賞

小国高等学校

佐々木 莉珠

長井商工会議所会頭賞

米沢中央高等学校

高橋 都

米沢信用金庫理事長賞

米沢中央高等学校

星 知里

入選

米沢中央高等学校

鈴木 玲佳

米沢中央高等学校

八巻 涼雅

米沢中央高等学校

吉田 悠香

長井高等学校

竹屋 水葵

米沢中央高等学校

奥田 美佳

米沢中央高等学校

小島 未裕

○文化広報部

『米沢有為会々誌』第七十四号の発行

まず、本会の定時総会が昨年度に引き続き六月二十二日（土）米沢市の伝国の杜で開催され、五つの議案が承

認されました。その後、文化講演会があり、講師の上杉邦憲氏（宇宙航空研究開発機構（JAXA）名誉教授・本会名誉会長）より、「宇宙とともに六十年　そして未来へ」と題して、氏が歩まれてきた壮大な宇宙工学技術研究について詳しくお話いただきましたので、その要旨を掲載しました。

また、文化大学は、今年三月十日（日）オンラインで開催された第三十五回「米沢における戦後英語教育の実践」（講師・手塚宮雄氏）の要旨を掲載しました。今年度はさらに三回予定されています。十一月十七日（日）第三十六回近藤洋介氏「好循環の米沢―危機をチャンスに―」、十二月十五日（日）第三十七回平山英三氏「転機を迎えた米沢有為会の育英事業」、令和七年二月二十三日（日）第三十八回鈴木浩美氏「法曹との出会いとその後の歩み―刑事裁判官として考えていたこと―」参加お申し込みの上、ご自宅でご聴講下さい。なお、要旨掲載は次号になります。

第七回高校生小論文コンテスト『優秀小論文集』の発行

第七回目となる置賜地区高校生小論文コンテスト（地域振興部担当）は、「人口減少社会の中でも持続可能な

地域とするため、地域の未来と私の生き方を考える」と昨年度と同じテーマで、地区内の高校二年生を対象に募集しました。四校から九十七点の応募があり、厳正な審査の結果、最優秀賞一点、優秀賞四点、入選六点が選ばれ、この十一点を『優秀小論文集』にまとめ発行しました。十月二十六日(土)ホテルモントビュール米沢で行われた表彰式で受賞者や出席者に配布し、後日学校や関係者に送付しました。

なお、本誌には最優秀賞と優秀賞の他、平山英三審査委員長の「審査講評」や表彰式の様子、応募要項などの資料が掲載されています。

ホームページの更新

本会のホームページ(H.P.)には、新たに令和七年四月採用の学生寮紹介と寮生及び奨学生募集のポスターなどが追加されています。このようにHPは今年度も須貝利喜夫理事と山形県立米沢工業高等学校専攻科との連携協力の下、逐次更新され本会の様々な活動が蓄積されていますので、ぜひご覧ください。

管内高等学校校章



県立米沢興譲館
高等学校



県立米沢東
高等学校



県立米沢工業
高等学校



県立米沢商業
高等学校



県立置賜農業
高等学校



県立南陽
高等学校



県立高畠
高等学校



県立長井
高等学校



県立長井工業
高等学校



県立荒砥
高等学校



県立小国
高等学校



基督教独立学園
高等学校



学校法人九里
学園高等学校



学校法人米沢
中央高等学校

アップデートのタイミング

生活の中にすっかり溶け込んだ「アップデート」という言葉。パソコンやスマホなど、ソフトウェアの内容をより新しいものに変更、更新することです。アップデートは、既存ソフトの機能やセキュリティを改善、不具合を修正するために行われます。具体的には、新機能の追加、改良、パフォーマンスの最適化、セキュリティの強化などがあります。アップデートを実行することで、ユーザーは優れた機能や性能を活用することが可能になります。

このように便利な機能ではありませんが、「アップデートが必要だ」となどの表示が出て、すぐに操作をするのはお勧め出来ません。

実は、私の失敗談です。パソコンでメールを作成していた時に、この表示が出て何気なく「すぐに更新する」のボタンを押して許可してしまいました。ところが、なかなか更新が終わらずメールの画面に戻れません。早く送らなければならないメールを送信できたのは、だいぶ時間が経ってからでした。アップデートには課金を伴うものもあり、許可するかどうか、一息ついて慎重に行う

のが賢明です。

さて、アップデートはソフトの更新以外でも使われることが多くなりました。「情報をアップデート」するなどの使い方も一般化しています。「情報を新しいものに更新する」という意味になり、前向きな感じで使われることが多いようです。私も同様に会話のなかで使っています。コンピュータ用語の派生で、日常生活に馴染んでいる会話が増えています。

「世界をアップデートする方法」というタイトルの本を見つけました。題名だけで読者を惹きつける力を感じました。副題には「世界を眺める解像度が一気に上がる」とあります。

私だけの解釈かもしれませんが、「アップデート」は一回で終わるものではなく、その目的を達成するまで継続して使っていくように思います。



皆さんがアップデートしていることは何ですか。私は、俳句の季語を覚えたくなり、いつからかコツコツとアップデートしています。(須)



奨学生だより

今年度の新奨学生

今年度は残念ながら奨学生の応募者がありませんでした。このような事態を招いている理由はいろいろ考えられますが、そのいくつかの理由を挙げてみます。

1、「日本学生支援機構」（旧日本育英会）の奨学金が充実してきて、貸与金額も様々なパターンが設定され、また、条件を満たせば給付型にも応募できるようになったこと。

2、「日本学生支援機構」の奨学生選考は、提出書類による選考のみで、条件を満たしていさえすれば採用となり、本会の奨学生選考のような面接などがないこと。
3、少しずつですが民間の育英団体の給付型奨学金が出て来ており、それが魅力的であること。

本会の奨学金も給付型にできればよいのですが、かりに月額四万円の貸与を給付にすれば、一人当たり採用時にはざっと二百万円の支出を覚悟しなければなりません。なかなか容易には実施できませんが、応募者が増えるような新たな奨学生制度の改革が望まれているところです。

「大学生活を振り返って」

（返済開始奨学生） 佐々木 りこ

この度は、奨学金のご支援をいただきまして、誠に感謝しております。

奨学金のご支援のおかげで、それを大学生活にかかると費用にあてることができ、大学生活を思う存分に楽しむことができました。アルバイトを経験しましたが、毎月の足りない生活費を稼ぐというよりは、できるだけ多くの友人を作りたい、さまざまな経験を積みたいという気持ちでできたのは、貴会からの奨学金を借りているからこそだと思えます。

卒業後は、地元へ帰り、目標としていた小学校教諭になることができ、この四月から働いています。大学四年間の学びを土台とし、今後とも活躍できるように日々精進してまいります。長い間ご支援くださいました多くの会員の方々への感謝を忘れず、今後とも、目標に向かい、努めてまいります。

最後になりましたが、この度は本当にありがとうございました。

支部だより

東京支部

令和六年度の東京支部の活動状況を報告します。

① 二月十一日(日) 新年会・予選会

(四谷・主婦会館プラザ) 出席者三十七名、学生九名。

② 五月二十八日(日) 令和六年度定期総会開催

(四谷・主婦会館プラザ) 出席者三十二名、学生五名。

③ 十一月十日(日) 園遊会開催

(四谷・主婦会館プラザ) 例年会員以外の方も参加されるので、学生を含めて約四十五名を見込んでいる。

昨年暮から今年三月にかけて、米沢有為会が運営する東京と仙台の学生寮の入寮者の増員を図るべく、米沢・東置賜地方の方々に配信される地元ケーブルテレビに

三十本ほどのスポット広告を流した。このスポット広告の出来映えは非常によく、理事一同大きな期待をかけていたが、結果は残念ながら期待外れに終わってしまった。現在仙台寮には約十名弱の入寮者がおり、何とか経営は成り立っているが、東京寮については、九名しか入寮者はいない。東京寮の経営に必要な最低人数は、十四名とされている。したがって、このまま低調な状態が続くとすれば、早晩寮経営が不可能になる事は、自明である。非常に深刻な事態にあると言わなければならない。

理事会では特に東京支部に所属する理事数名から成るワーキンググループを作って、様々な観点から何度も検討を行ってきた。この論議の詳細は、今後会報などを通して、会員の皆様方にお知らせされるであろう。

今回東京興譲館寮の運営費を支援すべく、四月十六日(火)日暮里駅前のホテルラングウッド内にある「サニール」において、八木倫明君主催による『ふるさと置賜チャリティ・コンサート』(代表・工藤美知尋)を実施した。

同様のチャリティ・コンサートは、七月二十八日(日)、

米沢市「伝国の杜コンサートホール」においても行われた。結果的には有為会会員のご協力もあり、成功をおさめることが出来た。このチャリティ・コンサート開催に際しては、米沢市内在住の音楽の先生方や、コーラスクラブの会員の方々、およびボランティア活動をしておられる皆様方のご協力の賜物である。

このコンサートによる収益金約四十四万円は、東京興譲館寮に対する「特別寄付金」にあてられることになっている。

なお、今年十二月八日（日）には、「伝国の杜・能楽堂」において、米沢置賜における文化活動の興隆のため、工藤美知尋主催・米沢有為会後援による【上杉米沢置賜能公演】が開催される。数年前まで米沢置賜地方で盛んだった能楽や謡曲などの文化活動は、新型コロナウイルスの影響もあって、活動がほとんど停止の状態に陥っている。

米沢市「伝国の杜」には山形県下で唯一の本格的な能楽堂があるにもかかわらず、自前で能楽公演が出来ずにいる。こうした低迷を打開するため今回の能公演が企画された。

今回の能公演では、観世流『鉢木』が上演されるが、シテは、工藤美知尋が努める。工藤は二〇〇二年、観世

流師範となり、これまで東京の観世会館で、『清経』『三輪』『井筒』『船弁慶』『天鼓』などのシテを努めて研鑽を積んできた。『上杉・米沢・置賜能公演』の名称は、この地方にふさわしい演目をということから、特に上演されるものである。この『鉢木』の主人公である佐野源左衛門常世の末裔の方は、現に米沢市に在住されておられる。

工藤美知尋 記



園遊会（寮生による受付）



令和6年度園遊会（11月10日）

米沢支部

令和六年度米沢支部の上半期活動状況を報告いたします。

○四月十日 第一回副支部長会議

米沢市役所会議室にて開催。
新年度の米沢支部役員体制、米沢支部総会などについて打ち合わせをしました。

○四月三十日 教育文化・産業功労者選考会議

米沢市役所会議室にて開催。
該当者を選考し、併せて賞状原文作成を分担し依頼しました。

○五月十日 米沢支部監査

米沢市役所会議室にて実施。
令和五年度支部会計決算と同年度我妻榮記念館会計決算を監査していただきました。

○五月十五日 第二回副支部長会議

支部理事会議案について打ち合わせをしました。

○五月二十九日 第一回理事会

米沢市役所庁議室において開催。

令和五年度米沢支部事業報告及び決算報告を承認し、我妻榮記念館に関する庶務、事業報告、決算報告、事業計画（案）、予算（案）を了承。また、令和六年度事業計画（案）及び予算（案）を支部総会に提案することに決定。さらには令和六年度表彰者について教育文化・産業功労表彰の選考結果を報告し、本部へ提案することで了承を得ました。

○六月八日 本部、支部総会案内、米沢有為会会報等の發送作業

我妻榮記念館にて開催。

○六月二十二日 本部総会、米沢支部総会、第二回支部理事会、懇親会

伝国の杜大会議室において開催。
支部総会は、中川勝支部長代理（伊藤和夫副支部長）挨拶の後、議事に入りました。令和五年度支部庶務・事業報告及び決算が承認され、また、令和六年度事業計画（案）を審議し承認されました。

人事案件について支部長、副支部長の互選及び常務理事の選任について承認され、その後臨時理事会で、近藤洋介新支部長と長谷川健常務理事が選任され、総会に報告されました。

その後、会場を上杉伯爵邸に移し、懇親会を開催しました。



近藤洋介新支部長

○六月二十二日 令和五年度教育文化功労者等表彰伝国の杜大会議室において開催。

今年、本部総会も同日開催されたことから、平山会長から特別顕彰者に賞状と記念品が授与されました。

○六月二十九日 第七回置賜地区高校生小論文コンテスト募集要項の発送作業

我妻記念館にて第七回高校生小論文コンテストの募集要項の発送作業を行いました。

○八月二十四日 奨学生募集案内

我妻記念館にて実施

令和七年度の奨学生募集作業を行い、各学校関係者を主に、募集案内、資料を送付しました。

○八月二十四日 支部運営会議

我妻記念館にて実施。

秋の行事である高校生小論文コンテスト、文化講演会、交流芋煮会について打ち合わせをしました。期日を十月二十六日とし、講演者や段取りについて話し合いました。終了後、ささやかな食事会を行いました。

○九月六日 令和六年度置賜地区高校生小論文に関する審査勉強会

市役所会議室にて開催。

応募状況の報告、審査の進め方、審査勉強会や、AIに対する対応を決めました。応募総数は四校で九十七作品でした。

○九月十二日 令和六年度置賜地区高校生小論文コンテスト審査委員会①

市役所にて開催。

一回目の審査について情報交換し、二回目の審査分
担を決定しました。

○九月十八日 高校生小論文コンテスト審査委員会②

市役所会議室にて開催。

審査のまとめ、審査の感想・意見等を交換しました。

○九月二十四日 高校生小論文コンテスト審査委員会③

市役所会議室にて開催。

審査結果のまとめを行い、二次審査に送る作品に二
十点余を決定しました。審査の感想・意見等を交換し、
今後の取り組みを協議しました。

○十月四日 高校生小論文コンテスト最終審査委員会④

市役所会議室にて開催。

二次審査の結果から最終審査を行い、各賞の作品を
確認し、表彰小論文十一点を決定しました。

○十月十一日 『故郷を愛した民法学者我妻栄先生』贈
呈

興譲小学校において実施。

小学五年生十七名に同冊子を贈呈しました。他の小

学校へは、十月十日の校長会において、各校の校長に
配布し、子供たちへの贈呈をお願いしました。

○十月二十六日 高校生小論文表彰式、文化講演会、交

流芋煮会

ホテルモントビュー米沢にて開催。

令和六年度第七回置賜地区高校生小論文コンテスト
表彰式と、コロナ禍で控えていた文化講演会・交流芋
煮会を行いました。コンテスト表彰は最優秀賞を含め、
十一名の受賞者に平山会長から賞状と副賞が授与され
ました。

文化講演会は、有為会副会長・代表理事の加藤国雄
様より「米沢藩の借金・再生史」を演題に、ご講演を
頂きました。五年ぶりの交流芋煮会は、伊藤副支部長
の乾杯で、盛大に行われました。

○十月二十九日 寮生募集案内

我妻記念館にて実施。

令和七年度の興譲館寮生募集作業を行い、各学校関
係者を主に、募集案内、資料を送付しました。

長谷川 健 記

仙台支部

総会の開催

令和六年六月二十九日（土）午後一時より、スマイルホテル仙台において、支部会員十五名の参加を頂き支部総会と講演会を開催しました。

総会

- 総会進行 滝口政彦理事
- 開会の挨拶 塚原保夫副支部長
- 支部長挨拶 鈴木修治支部長

議事

- 一、令和五年度事業・決算報告と監査報告
- 二、令和六年度事業計画案と予算案
今年度事業計画では仙台興譲館寮エアコンの設置を含めて承認されました。
- 三、支部役員の選任
支部役員選任で遠藤光広理事を副支部長に選任し承認

されました。

報告事項

- 一、仙台支部及び仙台興譲館寮の状況
東京本部の了承を得て七月中に仙台興譲館寮にエアコンを設置予定です。寮生は現在七名が入寮しています。
- 二、会員の異動

総会時点の会員数は八十三名です。賛助・正員が八十二名、法人会員が一人です。

仙台支部会員の高齢化が進み、若い人の入会増進のため仙台興譲館寮出身者へ勧誘のはがきを出しました。入会をお願いします。

- 三、支部だよりの発行
滝口理事が編集責任者として仙台支部及び興譲館寮の近況等を掲載し、支部会員に春と秋年二回送付しております。

講演会

講師 東北大学理学部 今井良宗准教授
(略歴 米沢興譲館高校卒業、東北大学工学部卒、日本原子力開発機構や東京大学総合文化研究科に勤務、有

為会仙台支部理事)

演題「超電導の不思議な世界と最近の研究動向」

超伝導について、大変興味深くまた先端的な研究内容を我々にも理解しやすくお話し頂きました。

講演会終了後、仙台三越屋上のビアガーデンに移動して、興譲館寮の今昔や近況等についてそれぞれ楽しく歓談しました。

交流会の開催

夏の交流会

八月五日(月)午後六時より、仙台湖興譲館寮の屋上において仙台七夕まつりの前夜祭に行われた花火大会に合わせて、寮生、寮母、支部理事の十名の参加者で、打ち上げられた夜空を彩る花火を見ながら歓談しました。

秋の交流会

十月二十六日(土)正午より、仙台興譲館寮近くの広瀬川河畔において芋煮会を開催しました。天候に恵まれて、寮生及び会員とその家族十二名の参加がありました。この度は米沢から取り寄せた里芋と牛肉がふんだんに入った美味しい芋煮を食べながら、和やかに近況等を話し歓談しました。

鈴木修治 記



仙台興譲館寮近くの広瀬川の河川敷に於いて

北海道支部

現在の北海道支部の会員数は十五名です。活動としては今年の二月に支部総会（写真）を、八月に懇親会を開催しました。それらの会では、会員の近況、米沢に関する最近の話題、さらに、とある高校の昔の先生のうわさ話などで、なつかしく楽しく盛り上がりました。

出席したある会員は、置賜地方の好みの地酒を持ってきてくれました（写真）。皆様、日本酒が大好きですが、高齢化が進んでいますから、飲み方は抑制的です。総会のあとの二次会では、カラオケスナックでカラオケを楽しみました。

さて、私ごとですが、今年九月に米沢興譲館高校時代の同級生で米沢市在住の山下敦さんから突然連絡をもらい、十八年ぶりに札幌で会うことになりました。北海道大学の構内や旧理学部博物館、同植物園および清華亭などを彼に案内しました。聞いたところ、彼は米沢市出身で建築家・建築史家として有名な「伊東忠太の会」代表をつとめていました。また、伊東忠太は、明治二十二年（一八八九）年に米沢有為会が結成されたときの発起人

六人の内の一人であるとのことでした。「伊東忠太の会」との関係で、山下さんは建築に大変興味があるとのことです、古い記念建築物を見ることが出来て大変喜んでいました。

今回、思わぬところから米沢有為会の発起人の一人の業績を研究している人が高校時代の友人だったと知り、これも米沢有為会との縁だなど感心しました。また、高校や米沢有為会などの縁を切らずにつなげていくと、楽しい時間をたくさん過ごせると改めて実感しました。



八月の懇親会にて集合写真



同懇親会で差し入れされた
置賜の地酒の一つ

副支部長 丹野 久 記

興讓館寮だより

東京興讓館

伊藤 翔 大

日頃より東京興讓館寮の運営と我々学生の生活に多大なるご支援をいただきますこと誠に感謝申し上げます。十月現在、寮には十名の学生が在籍しており、それぞれが目標に向かって励んでおります。東京興讓館の近況について簡単ではありますがご報告させていただきます。

まず、今年度は一名の新しい寮生を迎えてスタートしました。同郷の後輩を新たに受け入れ、上京した頃の期待と不安が入り混じった自分に重ね合わせると同時に、先輩としてそして寮長として、彼らをさまざまな面からサポートすることの責任感を感じた次第です。しかし、依然として寮生は少ないままであり、寮の活気が少なくなっていることには寂しさを感じています。それでも、新入寮生歓迎会や大掃除などの行事は従来通り行い、今いる寮生で最大限楽しめるようなイベントづくりに全員で取り組めたと思っております。

また、寮に在籍している学生のうち来春で卒業を迎える寮生が多く、卒業に伴い退寮されると寮生はこれ以上に少なくなることが考えられます。今ですら寮の運営は厳しいところですが、今後は深刻な財政状況になってまいります。食事会などの寮のイベントが開催できなくなることも考えられ、不安を感じます。

有為会の皆様には新しい寮生の獲得にご尽力いただくだけでなく、さらには補助金までいただき、大変ありがたいと思います。また寮母さんも、この物価高の社会の中で苦しい財政状況にもかかわらず、さまざまに節約の工夫をこらしながら毎日の食事を作っていたいており、感謝申し上げます。我々寮生も電気や水道の節約など、寮の財政状況改善のためにできる限りのことをやってゆく所存です。

最後になりますが、寮生十名の紹介をもって結びとさせていただきます。短い学生生活ではありますが、寮生一同志高く邁進してまいりますので、今後とも見守っていただけると嬉しく思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【大学院生】

後藤 洵 (東京科学大学修士課程二年)

(山形東高校) 山形市出身

鈴木龍太郎 (東京農工大学工学部修士課程一年)

(米沢興讓館高校) 長井市出身

【五年生】

金田 凌 (杏林大学医学部)

(長井高校) 長井市出身

【四年生】

伊藤 翔大 (一橋大学社会学部)

(長井高校) 川西町出身

大西ひかる (明治大学理工学部)

(米沢興讓館高校) 米沢市出身

原田 悠希 (明治大学政治経済学部)

(山形東高校) 山形市出身

【三年生】

齋藤 洸祐 (日本大学理工学部)

(米沢興讓館高校) 米沢市出身

武田 一晟 (國學院大學経済学部)

(東北学院高校) 仙台市出身

見保 駿作 (電気通信大学情報理工学域)

(米沢興讓館高校) 米沢市出身

【二年生】

野呂 知志 (法政大学文学部)

(川口北高校) さいたま市出身



仙台興讓館

杉山綾汰

肌に触れる風が涼しさから冷たさに変わり、少しずつ冬の訪れを感じる季節となりました。興讓館寮前の牛越橋下の河川敷では、日々芋煮鍋を囲う人々で賑わっています。外から聞こえてくる人々の声を耳にして、季節の変わり目であることをますます実感しております。

さて、日頃より寮の運営にご支援いただいている米沢有為会の皆様方には、寮生を代表して心より感謝申し上げます。この度は仙台興讓館における生活の様子を皆様方にご報告させていただきたいと存じ上げます。

仙台興讓館では物価や電気代などの高騰に伴い、今年度から寮費が引き上げられることとなりました。その影響で入寮希望者の減少が懸念されましたが、昨年度製作していただいた寮紹介の動画の効果もあってか、新たに三名が入寮し、現在計七名で寮生活を送っています。昨年度の六名から一名増えたことで、仙台興讓館に少しばかり活気が増したように思います。

昨年度からの変化といたしましては、今年度より各行

事が本格的に再開しました。有為会仙台支部の理事の皆様方や館長及び副館長をお招きして、四月には新入寮生歓迎会、八月には花火鑑賞、そしてつい先日は牛越橋の河川敷で芋煮会を行いました。新入寮生歓迎会はコロナ禍以前より開催しておらず、今年が久々の開催となりました。コロナウイルスの影響で今まで関わることの難しかった理事の皆様方とお話する機会が増えたことは、非常に嬉しく思います。寮に活気を取り戻すべく、今後もしも行事活動を継続して、理事の皆様をはじめとする多くの先輩方とのつながりを大事にしていきたいと思っております。

近年、入寮者が減少傾向にあり、一時は寮の存続が危ぶまれることもありました。今なおこうして寮生活を変わず送ることができているのは、ひとえに米沢有為会の皆様方のご支援のおかげです。多くの方々に支えていただいているということをお忘れず、寮生一同感謝の気持ちを持ちながら生活してまいります。また、今こうして仙台興讓館寮で生活を送っている身として、次の代へと良いものを引き継いでいけるよう、そして、先輩方が守ってきたくださった歴史あるこの仙台興讓館寮を繋いでいけるよう、日々自分が何をできるのか考えながら生活し

てまいります。皆様方には温かく見守っていただければ幸いです。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

【寮生】

伊藤 功太 (仙台リゾートスポーツ専門学校1)

高橋 未来 (東北大学法学部1) 川西町出身

楊 剛 (東北大学工学部機械知能航空工学科1)

大橋 陽 (東北大学理学部数学科2)

渡部 勇真 (東北大学経済学部2) 米沢市出身

杉山 綾汰 (東北大学工学部材料科学総合学科3)

菅 桜太郎 (東北大学経済学部3) 小国町出身

【寮母】

桶川 幸江さん



七夕花火の写真、未来くん撮影

東京・仙台で学ぶ人のための(男子)学生寮

新入寮生募集



東京
興譲館寮

仙台
興譲館寮



寮費（平日朝夕2食付き）：65,000円（電気料などすべて込み）

募集人数：東京興譲館寮／15名程度、仙台興譲館寮／10名程度

オンライン面接（予約応募可）

随時選考と日時等指定選考

置賜地域（3市5町）の在住者または出身者の子弟であれば、
どの高校の生徒でも応募できます。

公益社団法人 米沢有為会

東京興譲館寮 / 〒182-0004 調布市人間町1-36 TEL.03-3309-3302

仙台興譲館寮 / 〒980-0874 仙台市青葉区角五郎2-6-21 TEL.022-222-4790



米沢有為会HP



東京興譲館寮



仙台興譲館寮

公益社団法人
米沢有為会の育英事業

令和7年4月採用

奨学生募集

受験生の皆さん、大学・大学院合格後の学費を
米沢有為会が奨学金で支援します。

種 類	I 型（貸費） 女子向け住居費 補助奨学金	II 型（減免） 地元若者定着 奨学金	III 型（貸費） 一般貸費奨学金
定 員	2 名	2 名	2 名
貸費金額	月額2万円 （無利子）	月額4万円（無利子） うち2万円を返還免除	月額4万円 （無利子）

◎ 面接選考日時

令和6年11月2日(土) 13:00～
於：置賜総合文化センター（米沢市）

◎ 応募〆切日

令和6年10月25日(金)

◎進学担当の先生または米沢有為会にご相談ください。

問
い
合
わ
せ
先

米沢市役所（秘書広報課）内 米沢有為会 米沢支部 宛 0238-22-5111(内2920)
公益社団法人 米沢有為会 03-3309-3302

詳しくはHPをご覧ください

<http://www.yonezawa-yuukai.org/>

米沢有為会 検索

我妻榮記念館だより

○開館の経緯等

我妻榮記念館は、民法学者我妻榮先生の生家を記念館としたものです。先生は明治三十年米沢市鉄砲屋町（現在の中央三丁目）に生れ、十七歳で旧制第一高等学校に入学されるまで過されました。明治期に建てられた木造一部二階建の貴重な建物です。

大正六年の米沢大火には、父上の又次郎先生（自雷様）の教え子達（米沢中学校生徒）の消火活動で類焼を免れました。我妻家が市内他所に引越され、大友家が買い受けて昭和六十三年まで七十年間住み、県外に転居されました。その後、市内の建築業者に渡りました。

老朽建築物で解体の予定でしたが、我妻榮先生の生家であることが分かり、維持保存の機運が高まり、平成元年米沢有為会創立百周年の節目に、我妻榮旧宅取得が了承されました。

建物等の整備と遺族からの寄贈品を整理展示し、平成四年六月二十一日に開館しました。

さらに昨年、米沢市名誉市民我妻榮没後五十年・我妻榮記念館開館三十周年記念事業を行いました。

初代館長 松野良寅（平成四年六月～十四年五月）
二代館長 今田久夫（平成十四年六月～二十年五月）
三代館長 伊藤和夫（平成二十年六月～二十一年五月）
四代館長 上村勘二（平成二十一年六月～二十九年六月）
五代館長 矢尾板操（平成二十九年六月～令和六年三月）
六代館長 土屋 宏（令和六年四月～）

○令和五年度の運営報告

年間開館日

通常開館日…毎週月・木・金・日曜日の午後一時～

四時 二二八日開館

臨時開館…七日開館 合計二三五日開館

・入館者数 四一四名（四年度は二八七名）

・記念館の利用 二八五名（四年度は二一九名）

米沢有為会米沢支部、上杉鷹山公と先人を顕彰する会、火種塾、置賜民俗学会、鉄砲屋町町内会等

・施設整備等

生垣の整備・刈り込み及び消毒、雪囲いの実施等

・資料整備 著作のPDF化（楳ジューエスデザイン）

・印刷出版

我妻榮記念館だより（第二十八特別号）の発行

副読本「故郷を愛した我妻榮先生」を市内小学五年

生全員に配布（五八一名）

・その他

県立米沢興讓館高校の自頼財団奨学生による清掃奉

仕と館長講話

運営委員会 三月

○米沢市名誉市民我妻榮没後五十年・我妻榮記念館開館

三十周年記念事業

・記念式典・記念講演・パネルディスカッションの開催

・我妻榮先生銅像除幕式・法律相談会・施設周辺の整備

・展示環境の整備

所蔵写真の複製化・直筆原稿の複製化・本田吉馬宛

書簡のレプリカ作成と額装展示・我妻先生の肉声講演

が聞ける機材の設置

・ナセB Aの我妻榮展に合わせた特別展の開催

○令和六年度の運営計画

・開館日は毎週月・木・金・日曜日の午後一時～四時

・記念館の維持補修に関すること

雪囲い・垣根の補修等・資料の展示保管及び展示物

の維持補修等

・記念館の展示環境及び活動環境の整備

エアコンの設置（二台）・机と椅子の設置・パソコンの更新

・記念館の資料のデジタル化に関すること

・記念館だよりの発行（年一回）

・副読本『故郷を愛した我妻榮先生』を市内小学五年生

全員に配布

・運営委員会の開催（年二回）

○記念館の運営体制

平成四年の開館以来、館長・管理人（名称を事務長に

変更）・運営委員を置き、管理運営しています

名誉館長 我妻 学

顧問 上村勘二、

矢尾板操

運営委員 安部 敏、

佐藤 繁、佐野隆一、

高橋節子、本多和彦、

山口玲子（新任）、

吉田直志（新任）

館長 土屋 宏

事務長 佐藤敏孝

我妻先生の銅像



米沢有為会 『文化大学』

第三十五回文化大学

令和六年三月十日（日）

オンライン

「米沢における戦後英語教育の実践

～米沢英語研究懇話会の活動を通じて～」

米沢有為会 文化広報部長 手塚 宮雄



一 戦後の英語教育

戦後、文部省は教育刷新審議会の答申を受けて、学校教育の要である学習指導要領を一九四七年から二〇一六年までの約七十年間に試案を含めて九回改訂し、教育改革を推進してきました。これに基づいて全国の学校は、県・市の教育委員会等の指導の下、教育課程を編成し、児童生徒の教育や特色ある学校づくりを進めました。その間、英語は長らく選

択教科でしたが、ようやく中学校は二〇〇二年に必修科目になりました。指導要領の改訂のたびに文部（科学）省中学校用検定教科書が各市区町村の教育委員会で採択されました。一方、高校の教科書は、昭和時代「文法訳読法」の授業が主流であったため、リーディングを重視して編集され、英文法の教科書と共に使用されました。

二 山形県英語教育研究会

一九四八年、新制中学校・高等学校の発足を受けて、英語教育振興のために全国に各県単位で中・高合同の研究会が発足しました（六三年中・高に分離）。以後、毎年県内各地で県英語教育研究会や英語弁論大会、中学生夏期英語講習会、英語力だめしなどの事業が行われました。五六年からは『山形県英語教育会報』が発行され、中高教員の授業研究や大会報告などが掲載されています。また、組織的にも県本部と八支部に分かれ、村山・置賜・最上・庄内の四地区ごとに前述の事業が実施されました。

三 米沢英語研究懇話会の活動

一九八七年六月、松野良寅氏（当時山形大学教養部教授）が米沢英語研究懇話会（英懇）を創設しました。その目的は①米沢市を中心とした置賜地区の中学生・高校生英語学力の向上②中学校・高校英語教員の研修と研究発表の場の提供③中学校・高校・大学の英語教員の交

流にありました。松野氏は日本英学史学会や日本英語教育史学会の会長や会員として、東京などから先輩や友人を英懇の顧問に招聘し、指導・助言・交流を依頼しました。英懇会員は米沢市や置賜地区の中学校・高校・大学の英語教員で、約百名の大集団になりました。

英懇は毎年三回ほど例会を開催し、顧問の講演や会員の研究発表、実践報告などを重ね、その活動の記録をまとめる形で機関誌『ACORN』を発行してきました。創設以来二〇二二年までの三十五年間に百四回の例会を開催し、第三十五号まで『ACORN』を発行しました。

四 東北六県中学校・高等学校英語教育研究大会

一九九四年十月、米沢市を会場に初めてこの大規模な研究大会と英語弁論大会が共に開催されました。県英研本部と東南置賜支部の二年半に及ぶ入念な準備により、成功裡に終わりました。英懇発足以来九十四年までの八年間の活動を通して中・高英語教員の協力体制は強化されており、最大の課題である研究授業者や分科会発表者の選定も、例会発表や研修会への参加などの実績を基に早く行われました。また、八十七年に全国に導入されたJ E Tプログラム（外国青年招致事業）も進んでおり、米沢市内の中・高では外国語（英語）指導助手（A L T）と英語教員との授業（ティーム・ティーチング）が頻繁

に行われ、教員の英語運用能力は十分高まっていました。

五 英懇第百回例会と小学校への外国語教育導入

二〇一八年十一月、英懇は記念すべき例会第百回を迎え、米沢市P T A連合会と共催で英語教育講演会を開催しました。講師は文部科学省の教科調査官直山木綿子氏、演題は「新小学校学習指導要領における外国語指導のあり方」移行期に取り組んで起きたこと」でした。

情報化やグローバル化の急激な進展を背景に、二〇一七・一八・一九年の指導要領改訂により、外国語（英語）のコミュニケーション能力育成の改革が求められ、二十年度よりいよいよ小学校三・四年生に外国語活動、五・六年生に外国語（英語）の教科が導入されました。中学校（二二年度）・高校（二二年度）でも同様の改革が実施され、小・中・高の新たな連携と研究・実践が求められました。この一連の改革は、戦後七十数年の英語教育の中で革命的ともいえる改革でしょう。

六 英懇 三十五年間の歴史を刻む

米沢英語研究懇話会は二〇二二年三月、その三十五年間にわたる活動に終止符を打つことになりました。中・高・大の会員や顧問・賛助会員・市民との交流を通して、英懇が米沢市を中心とする置賜地区の子どもたちや教員の英語力向上に少しでも貢献できたなら幸いです。

置賜市町だより

米沢市

はじめに

米沢市では、ひと、モノ、お金が集まる活力ある「好循環の米沢」を目指しています。そのために、「子育て・教育の米沢」、「稼ぐ力があり市民の所得が増える米沢」、「誰もが暮らしやすい米沢」の三つを柱に据え、それらが良好な循環を形成するように取り組んでいます。

一・子育て・教育の米沢

地方における人口減少が加速する中において、子育て世代に選ばれるまちとなることが重要です。

その第一歩として、令和六年四月から置賜地域で初めて小中学校給食費の完全無償化を実施しました。子育て世代



地元産の食材を使用した給食

への経済的支援にとどまらず、地元産の食材を使用した安全・安心な給食を子どもたちに提供することで、食育の推進にも力を入れていきます。また、働く子育て世代を応援するため、放課後児童クラブ利用料の無償化の検討を進めています。

教育環境の整備が、子育て世代の定住にもつながります。地域の教育水準を高める県立中高一貫教育校の本市への設置に向け、関係機関に働きかけるとともに、市民意識の醸成を図っていきます。また、小中学校の統廃合の取組を行っていますが、令和八年度の開校に向け、南成中学校の校舎等の建設を行っています。近年の酷暑から子どもたちを守る取組として、小中学校全ての体育館に移動式冷房機器を導入したほか、高性能気象センサーの設置や顔の表情などから熱中症のリスクを判定する「AIカメラ」の導入など、先進的な取組も行っています。

こうした取組により子育て世代が



熱中症リスク判定AIカメラ

米沢に定住し、安心して子供を産み育てることに繋がっていきけば、消費が拡大し、経済活動が活発化します。

二、稼ぐ力があり市民の所得が増える米沢

まず、魅力ある雇用の場を創ります。現在本市には、八幡原中核工業団地と米沢オフィス・アルカディアの二つの産業団地がありますが、八幡原中核工業団地は一〇〇%、米沢オフィス・アルカディアは八六・六六%と非常に高い分譲率となっております。新たな産業団地の整備が急務となっております。東北中央自動車道のインターチェンジ二箇所の周辺を候補地として比較検討を行っており、令和六年度内に場所を決定します。若年層の人口流出や労働力不足が課題となっておりますので、市内で学ぶ高校生や大学生に残ってもらえるような企業を誘致したいと考えています。

産業界の人材確保の取組も重要です。多くの卒業生を輩出してきた米沢商業高校と米沢工業高校が統合し、令和七年四月に米沢鶴城高校として開校することから、令和三年十月に両高校と経済界、行政が地域コンソーシアムを設立し、両高校の人材育成教育を支援するとともに、産業振興による魅力ある地域づくりを推進することで、

両校の生徒が、産業界の次世代を担う人材となり、本市への定住にも繋がるよう取り組んでいます。大学生の定住等に向けては、学園都市推進協議会を中心に、学生と地域が関わる機会を積極的に増やし、学生が本市に定住したい、市外に住んでも本市と継続的に関わっていきたいと思ってもらえるような「ホームタウン化」に取り組んでいます。

地域企業や地域の事業者、農業生産者の発展がなければ、本市の発展はありません。そうした方々との対話を重ね、寄り添った支援を行うとともに、国、県、大学等と連携し、市内の経済発展に向けた取組を行っていきます。

ふるさと応援寄附金の拡大も重要です。今年度新たにふるさと納税推進室を設置し、民間事業者との連携や魅力的な返礼品の開発を進めるとともに、情報発信を強化していきます。

こうした取組により市民の所得が向上していけば、市の税収も増加し、市民が暮らし



オフィス・アルカディア全景

やすい施策を実施する財源が生まれます。

三. 誰もが暮らしやすい米沢

まずは、豪雪地帯の本市にとって雪対策が重要です。今年度、除雪車運行管理システムを導入し、除雪事業者の業務負担を軽減するとともに、除雪作業の状況が市民にも見えるようにします。これに併せて除雪費を時間精算制に移行するほか、除雪オペレーターの育成支援を行うことで、きめ細かな道路除排雪を行います。

地域医療を守る取組も重要です。令和五年十一月に官民合築の米沢市立病院と三友堂病院が開院しましたが、医師不足という課題を抱えています。市長が先頭に立って大学医局等への要望活動を行い、医師や看護師等の確保を行っていきます。

診療所の医業承継も

課題となっており、令和六年度から小児科の診療所を市内に開業する医師等に対して最大一千万円の補助をする制度を新たに創設しま



米沢市立病院と三友堂病院

した。米沢有為会の会員の皆様におかれましては、本市の医師確保にご協力くださいますようお願いいたします。

全国的に高齢者の運転による重大事故が多発する中で公共交通の充実も重要な課題です。令和六年四月から高齢者や学生が使いやすいようにバス路線を大幅に見直しました。乗合タクシーについては、新たに郊外部の二つの地区で運行を開始し、現在は六つの地区で運行しています。今後は、バスや乗合タクシー等を組み合わせ、市内全域で公共交通が使える仕組みを構築していきます。

こうした取組により、市民が安心して暮らせる環境が整備されれば、子育て世代に選ばれるまちへと繋がっていきます。

結びに

米沢有為会におかれましては、長きにわたり未来を担う置賜の若者の夢を様々な形で支えてこられました。このことについて、深く感謝申し上げます。本市では、「好循環の米沢」を実現することで、子どもや若者たちに対して、自信を持って「米沢いいべ、こさ来い」といえるまちづくりを市民の皆様とともに実現していきます。

長井市

「タスパークホテル長井」リノベーション

タスパークホテル長井は長井市の中心部に位置し、長井市の産業振興や観光交流、活力を生み出す長井市のシンボリックな施設ですが、建築から三十五年以上経過し、施設が時代のニーズに合わなくなったことに加え、建物の老朽化が課題となっていました。そのため、産業振興と交流拠点としての機能を最大限に発揮できるよう、国の交付金を活用し、リノベーション工事を行いました。生まれ変わったタスパークホテル長井を紹介します。

まず、一階には広々としたホールとゆったりとした個室でおいしい日本料理が



リノベーションオープンした
タスパークホテル長井

堪能できる和風レストラン「井井殿」、ホテルメイドのパンを提供するベーカリーカフェ「バルソナ」、誰でも気軽にeスポーツが楽しめるeスポーツスタジオ「Nest」などが新たにできました。

二階・三階は、コンベンションホール・バンケットホール等をリニューアルするとともに、テレワークをはじめとした柔軟な働き方に対応できるようにコワーキングスペースやワーケーションルームを新たに整備しました。

さらに四階に、置賜エリア初の炭酸泉が魅力の温浴施設「SPAゆーばる」、フィットネスクラブ「リカッセ」を新設したほか、五階に付む本格的で格式高い茶室「五山草廬」も手直ししました。客室についても七階・八階部分をリノベーションし、長井市内を一望できる最上階も洋食レストランや宴会場（会議室）をリニューアルしました。

市民の皆さんの健康づ



炭酸泉が魅力の温浴施設
「SPAゆーばる」

くりや市外の皆さんのおもてなしなど、様々な場面で利用できる機能を備えた施設へと生まれ変わりました。」来るたびに楽しみが増し、日々の疲れた心と体をリフレッシュできる理想郷」をコンセプトとしてリノベーションしたタスパークホテル長井にぜひお越しください。

第六次総合計画策定

長井市では、平成二十六年から「みんなで創るしあわせに暮らせるまち 長井」を将来像とした第五次総合計画に基づき、令和五年度を目標年次としてまちづくりを進めてきました。

近年、社会経済環境が著しく変化している中、長井市が今後も持続的に発展していくためには、市民の暮らしやすさの向上や、誰一人取り残さない社会の実現などの様々な課題に対応していく必要があります。

このことを踏まえ、長井市が育んできた歴史や文化、「水と緑と花のまち長井」に対する市民の誇りを継承しながら、市民の皆さんが将来にわたってしあわせに暮らしていくことができるまちづくりを進めるために、令和六年度から十年間のまちづくりの指針となる長井市第六次総合計画を策定しました。

みんながしあわせに暮らせる長井

「ずっと笑顔あふれるまち」

この計画では、まちの将来像に「みんながしあわせに暮らせる長井「ずっと笑顔あふれるまち」」を掲げています。ここには、人々が互いに認め合い、誰もが活躍できるまち、市民が健康で安心して暮らすことができ、笑顔あふれる長井市にしていきたいという願いが込められています。

まちづくりの主役である市民一人ひとりと行政が関わり合い、地域コミュニティや関係団体など多様な担い手と力を集結させ、支え合いながら課題解決に取り組むことにより、将来像の実現を目指します。

目指すまちの姿を実現していくために、分野ごとの基本目標を定めました。

- 一 「安心して健やかに暮らせるまちづくり」
- 二 「夢を育み元気に活躍できるまちづくり」
- 三 「産業の活力あふれるまちづくり」
- 四 「住みやすく住み続けたくなるまちづくり」
- 五 「ともに創る持続可能なまちづくり」

これらの基本目標の達成に向けて、前期基本計画期間の五年間に重点的・優先的に取り組む事業を重点戦略と

して示し、着実な推進を先導していきます。重点戦略の設定にあたっては、「一人ひとりが輝く インクルーシブなまちづくり」を共通する目標とし、

「若者が活躍できるまちプロジェクト」

「世代を超えて支え合うまちプロジェクト」

「長井の魅力を活かすまちプロジェクト」

この三つのプロジェクトによって市民の皆さんのアクションを最大限に活かし、将来像の実現と人口減少社会への対応を目指していきます。

長井市制施行七十周年「紡ぐ、未来へ」

昭和二十九年十一月十五日に西置賜郡長井町、長井村、西根村、平野村、伊佐沢村、豊田村の一町五カ村が合併し誕生した長井市は、本年市制施行七十周年を迎えました。この節目の年に市内の団体にご協力いただきながら、様々な記念事業を実施しましたので、その一部をご紹介します。

【七十周年記念市民パレード&長井おどり大パレード】

毎年開催している長井おどりパレードに加え、七十周年記念市民パレードを八月に開催しました。市民パレ

ードには約千人、長井おどり大パレードには約千三百人の参加があり、大いに賑わいました。市内保育施設の子どもたちや、各地区、子ども育成会といった団体からの参加も多数あり、小さいお子さんや若者から年配の方までたくさんの方々楽しんでいただいたイベントとなりました。また、同日に長井ミンナガフェスを開催し、たくさんのお店が立ち並ぶとともに、特設ステージでは様々なステージショーが行われ、こちらも大変賑わいました。

【市制施行七十周年記念式典】

十月には、市制施行七十周年記念式典を開催しました。国内外から多くの関係者の皆様のご臨席を賜り、市民の皆さんともに盛大にお祝いしました。

この他にも、市制施行七十周年を祝う事業が数多く実施されました。記念すべき年を皆さんとお祝いし、記憶に残る、長井市の未来へ紡ぐ一年となりました。



長井おどり大パレード

南陽市

進むインフラ整備

公益社団法人米沢有為会の皆様には、日頃より当市の市政発展にご理解とご協力をいただいておりますことに、衷心より御礼申し上げます。

この度、令和六年十一月にオープンしましたJR赤湯駅待合室の改修工事についてご紹介いたします。

「南陽市の玄関口JR赤湯駅」

現在のJR赤湯駅は、平成四年七月の山形新幹線開業に合わせ、JR東日本と協議の上整備し、平成五年七月にオープンしました。新赤湯駅舎は、当市の観光の目玉のひとつであるパラグライダーを模した建物で、当時の通商産業省グッドデザイン賞を受賞しております。また、観光案内や物産販売コーナーを併設し、総合観光物産センターとして運営してまいりました。

「赤湯駅待合室の改修」

総合観光物産センターは開業してから三十年以上が経過し、時代の変化に伴い、その利用ニーズも変化しています。近年、近隣でも整備されているコワーキングスペース

や、中高生が学習したりするスペースがなく、さらに、建物の構造上、冷暖房の効きが悪く、夏は暑く冬は寒いといった環境で、その上、座席数も少ないため、駅での観光客等の滞在時間が短く、市のPRや物産販売、交流に結びついていないといった課題もありました。

このような状況を改善するため、当市でJR赤湯駅の待合室（総合観光物産センター）のリニューアルを行うこととしました。この事業は、国のデジタル田園都市国家構想交付金を活用して整備したもので、前述の課題解決と、地域経済の活性化、交流・関係人口の増加を図ることを目的として、新しい待合室には次の機能を整備しました。

・ カフェ、物産販売

快適に過ごすことができるよう、軽食やワイン等が提



赤湯駅交流ラウンジ正面

供されるカフェを設置し、地元特産品を販売します。

・スタートアップ(起業)の支援事業

スタートアップ(起業)を目指す人が集える場所として、相談や他のスタートアップ拠点との連携、商工会への紹介などを支援していきます。

・ICT教室の開催

イラスト、アニメーション、AR等の作成方法を学ぶ事業を行います。

・コワーキングスペース

様々な職種の方が無料で自由に使用できるスペースを確保し、快適に過ごすごができる環境を整備しました。

・多目的スペースの貸出

有料で使っていただけるスペースを設置(最大八名まで)しました。



赤湯駅交流ラウンジ

以上のように赤湯駅の待合室が新たに生まれ変わりました。観光客のみならず、中高生やビジネスマン、地元住民の方も日頃から利用しやすい環境を整備し、利用者の利便性の向上を図りながら、南陽市の更なる発展を目指してまいります。

「市道上野新田線・玉坂線道路改築工事」

市道上野新田線・玉坂線は、国道十三号から市民体育館を経由し、市道蒲生田関口線及び一般県道赤湯宮内線の交差点までを連絡している路線ですが、これまでは路面凍結等の問題により、冬季通行止めを実施しておりました。

本路線の通年通行が可能になれば、国

上野新田線・玉坂線 道路改築事業 ～通年通行に向けて～



上野新田線・玉坂線 道路改築事業

道十三号から市役所方面・市中心部・さらには公立置賜総合病院へのアクセス時間の短縮や、赤湯地区の渋滞緩和、交通利便性の向上など、整備効果が大きいため、除雪用の堆雪場所設置工事、ガードレールほか安全施設の設置工事、舗装補修工事、スタック防止のためのグルーピング工事を行い、また、定置式凍結防止剤散布装置を十台設置し、冬期間の車両の安全な通行を確保し、令和六年度冬より通行が可能となりました。冬期間のアクセス時間が短縮され、自動車交通の円滑化による都市の発展や、交通利便性の向上が期待されます。

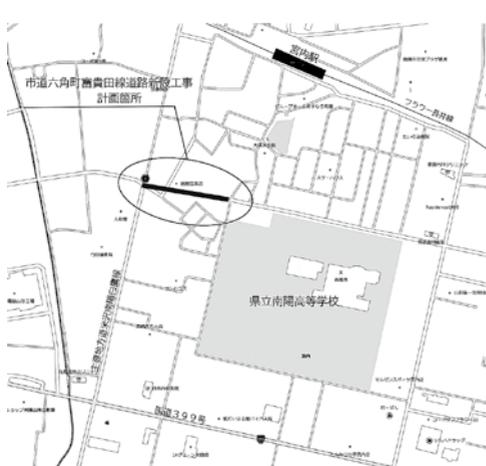
「市道六角町富貴田線道路新設工事」

本工事は、南陽市立地適正化計画（令和三年五月策定）に基づき、持続可能で強靱な都市構造へ再編を図るため、市道六角町富貴田線のうち、未整備となっている県立南陽高等学校西端から主要地方道米沢南陽白鷹線までの区間、約一六〇mを整備するものです。

本路線は、南陽高校から東側区間を平成三年四月の南陽高校開校に合わせて供用開始し、西側の主要地方道米沢南陽白鷹線から池黒地区までの区間を、工業団地へのアクセス道路として平成八年度までに供用開始しており

ますが、残区間の事業化が課題となっております。令和四年度に事業説明会、用地境界立会、物件調査まてを実施し、現在は、令和七年度内の工事着工を目標に用地買収と物件補償を進めており、事業全体としては、令和八年度の供用開始を目指しております。

本路線をはじめとする幹線道路の未整備区間が解消することにより、効果的・効率的な道路ネットワークが構築され、自動車交通の円滑化による都市の発展や、秩序ある市街地の整備、安全な生活環境の形成が期待されております。



六角町富貴田線位置図

高 畠 町

デュアルスクール受入事業

高畠町では、関係人口の創出や移住定住の促進につなげていくため、令和四年度から「デュアルスクール受入事業」を実施しています。

「デュアルスクール」とは、徳島県にある株式会社あわへの登録商標となっている事業で、区域外就学制度を活用し、地方と都市の二つの学校の行き来を容易にし、双方で教育を受けることができる新しい学校のかたちです。

令和四年度は、高畠町でデュアルスクールを実施するにあたって関係機関との調整等を行い、令和五年度は、一月にご家族一組を一週間の期間で高畠町立和田小学校での受入を行いました。今年度は、高畠町立二井宿小学校で七月に一組、九月に二組の受入を実施した



令和5年1月 受入時の様子
団子の木飾り

ところ です。

前年度に一週間の期間で実施した際に、子ども達が環境に慣れて打ち解けはじめた頃に帰ることになるため、関係性を築いていくためには、もう少し長い期間の受入とした方がよいという声を受けて、二井宿小では、二週間の受入期間で実施しております。

二井宿小は、全校生徒が三十名弱の小規模校で、一・二年生、三・四年生、五・六年生が複式学級で学ぶ、豊かな自然に囲まれた環境にある学校です。

都会からやって来た子ども達は、初めは緊張している様子ではあるものの、様子を見に来た校長先生が、デュアルスクールで来た子どもがどの子なのかすぐには分からないほど、二井宿小の子ども達と打ち解けて、楽しく活動をしていました。

七月の受入時には、蛍の鑑賞会に参加していただきました。九月には学校行事の中で稲刈りや遊びの中で栗拾い体験ができたようで、二井宿小学校の特徴を活かした豊かな体験をしていただくことができました。

受入側の二井宿小の子ども達にとっても、新しいお友達に加わることによる楽しさを感じることができたり、

積極的に発言をする様子に刺激を受けて活動が積極的になるなど、よい効果をもたらしているようでした。

また、デュアルスクールで来町した保護者にも地元団体の活動に参加いただき、交流を図ることができました。

今後も、年度内に二井宿小での受入や、和田小学校での受入も予定をしております。

この事業をきっかけとして、まずは高畠町の良さを知っていただき、関係人口の増加に寄与し、いずれは移住定住者の増加へつなげて行ければよいと考えております。



令和6年7月、初日全校朝会での紹介の様子

デュアルスクール受入事業は、希望者と受入側双方にとつて、よい影響をもたらすことのできる事業であると考えますが、この事業実施にあたっては、受入学校・希望家庭との調整、所属学校への説明と調整、宿泊先の選定や調整、交通手段の確保や調整が必要となり、受け入れられるご家族ごとに状況が異なるため、それに沿った対応が必要となり、事業を続けていくためには、財源とマンパワーの確保も重要な課題となります。

この課題を何とか解決しながら、次年度以降も受入を続け、町内の空き家利活用や、地域活動の活性化等へつなげていきたいと考えております。



令和6年9月、最終日、お別れ会の様子

川西町

川西町初のオリンピックアン

二〇二四パリオリンピック日本代表男子バレーボール選手の川西町出身・高橋健太郎選手の活躍は、私たちに大きな誇りと勇気を与えてくれました。高橋選手は犬川小学校、川西第一中学校（現川西中学校）、米沢中央高校、筑波大学出身の現在二十九歳。三年前の東京オリンピックでの日本代表落選から奮起し、並々ならぬ努力が実り国内トップリーグでは三年連続のブロンズ賞や二年連続のベストシックスの個人賞を獲得し、堂々の日本代表選手に。高橋選手の苦勞を知っていただけに、私たち町民はなお更、初のオリンピックの誕生を



喜び町あげて応援することになりました。初めて開催したパブリックビューイングでは合計三回開催したところ、県内各地から延べ五百人超が参加しました。また役場のほか犬川地区、犬川小学校、米沢中央高校など各地・各施設では懸垂幕を掲げ、応援モードの熱は高まりました。結果は残念ながら準々決勝で敗退となりましたが、懸命にプレーする姿は私たちに大きな感動を与えてくれました。記録的な猛暑が続いた夏でしたが、川西町初のオリンピック誕生で、さらに熱い熱い夏となりました。

高橋選手は大会後、川西町役場を訪問。「バレーボール界に多少なりとも貢献できて良かった、そして今後も頑張るって明るい話題を皆さんと共有したいので今後も応援よろしく」とあいさつ。今年から所属チームをジェイテクトステイニングスに移籍し新たなスタートを切りますが、今後一層の活躍を期待しています。



川西町内の主要な道路が続々開通！

- ①新潟山形南部連絡道路 国道113号「梨郷道路」が開通
- ②国道287号 米沢長井道路「川西バイパス1期区間」が開通
- ③町道虚空蔵山西線が開通

令和五年度は、本町にとって主要な道路が次々と完成し開通した年でありました。

まず、新潟山形南部連絡道路ですが、新潟県村上市を起点として山形県高畠町に至る延長約八十kmの地域高規格道路です。令和六年三月九日に開通した「梨郷道路」はその一部を構成する延長約七・二kmの道路で、広域交流や物流輸送の活性化が図られています。

新潟山形南部連絡道路は、現在、新潟県側の「鷹ノ巣道路」約五km、山形県側の「小国道路」約十二・六kmの整備が進められており、現道の国道113号と合わせて災害発生時のダブルネットワークとして、物資輸送や復旧作業の円滑化が図られることに期待が寄せられています。

次に、国道287号米沢長井道路ですが、米沢市と長井市を結ぶ延長約十九・四kmの国道287号のバイパス

道路です。米沢長井道路は、米沢北バイパス、米沢川西バイパス、川西バイパス、長井南バイパスの四つのバイパスで構成されており、その一部である川西バイパス五・七kmのうち、「川西バイパス1期区間二・九km」が梨郷道路と同じく三月九日に開通しました。梨郷道路の開通と合わせて置賜圏域三十分圏構想の実現に近づくとともに、高速交通網へのアクセスが改善し、置賜二次医療圏の高度救急医療を提供する公立置賜総合病院へ直結する「いのちの道」として、住民の救急救命につながっています。

なお、米沢長井道路については、全線において工事が進捗しており、早期の全線開通が待たれています。

本町においては、梨郷道路と米沢長井道路が結節する梨郷道路川西交差点（インターチェンジ）周辺をメディアカルタウンと位置づけ、公立置賜総合病院の機能を強化する医療や商業施設の誘致、住宅開発等に取り組み、人口減少を克服する地方創生を推進しています。

現在は、スーパーマーケット、ドラッグストアが営業を開始し、二つの医療機関が開業しており、住宅については、十七区間が全て完売し、うち十三世帯がすでに生活されています。今後は、商業施設、宅地開発ともに第二期の開発を予定しています。

次に、町道虚空蔵山西線ですが、本町の西回り幹線道路の一部となる道路で、米沢市と小松地区を結ぶ重要路線として整備しました。これまでは、国道287号を經由し米沢市と行き来していましたが、通勤時間帯の渋滞や歩行者の安全確保に課題があったため、米沢市と連携し事業を実施したものです。令和五年十二月二十七日に

開通した
本路線及
び米沢市
側の市道
広幡西回
り線によ
り、渋滞
緩和や交
通事故防
止が図ら
れ、交通
の利便性
が大幅に
向上して
います。
これら



メディカルタウンから梨郷道路、国道287号川西バイパスを望む



梨郷道路 川西こ線橋から東（南陽市方面）を望む



国道287号川西バイパス 犬川地区から北（長井市方面）を望む

の主要な道路の開通により、人やモノの流れが活発化し、経済、観光等が活性化されることに期待しています。今後は、これらの幹線道路から街中への誘導を図るための道路整備や、街中の魅力づくりが課題と捉え、立ち寄ってもらえるまちづくりを行っていきます。

小国町

協働の地域づくり

「まちづくりパートナーシップモデル事業」事例から

「協働」とは、地域と行政がともに考え、同じ目的のためにそれぞれの役割を分担し、ともに力を合わせて活動することです。

本町では、令和四年度から地域と行政が協働して、地域の課題解決や地域づくりなどに取り組み、仕組みづくりに向け、「まちづくりパートナーシップモデル事業」を実施しています。

○人口減少下での地域づくり

現在、少子高齢化や人口減少が進行し、高齢者が安心して暮らせる環境整備が不可欠となる一方、地域づくりを担う若者層の流出により、地域づくり活動人口が減少しています。一方、行政の役割も多様化、複雑化しており、これからは地域と行政職員が協働して地域づくりに取り組むことが重要となります。

このような状況のなか、本町では地域に町職員が出向

き、地域住民と課題解決に取り組み「地域支援職員派遣制度」の導入を検討しています。

令和三年度には、各地域のサロンや地域づくり団体等に対してヒアリングを実施し、地域の現状や実情、地域づくり活動を実施するうえでの課題等を整理しました。また、令和四年度には、「地域支援職員派遣事業」導入のためのモデル事業として「まちづくりパートナーシップモデル事業」を実施しました。

○パートナーシップモデル事業の取り組み

本事業は、地域と行政がともにまちづくりのパートナーとして「協働のまちづくり」を推進するため、地

地域支援職員派遣制度のイメージ図

こんなことに困っている…



こんなことをやってみたい！

パートナー職員に相談してみよう！



道路に穴があって困っている…



みんなで交流する機会を作りたい！

地域整備課の職員に伝えます！

交流する機会は、どのようなイメージですか？他の地区の事例もご紹介しますので一緒に進めていきましょう！

域と行政のつなぎ役となるパートナー職員をモデル地域に配置するものです。

パートナー職員は地域住民と一緒に地域活動を盛り上げるほか、生活に身近な課題の解決策を考え、地域活動に役立つ情報を提供するなど多方面から地域づくりに参画します。

令和四年度はモデル地区として「北東部地区」を選定し、川西町の特定非営利活動法人きらりよしじまネットワーク事務局長の高橋由和氏をコーディネーターとしたワークショップを実施しました。

ワークショップでは、町の人口推移や高齢化率、財政力指数といったデータを基に現在の状況を把握することで、地域に対する危機感の共有等を行ったほか、なぜ協働が必要であるのかについて考えるとともに、地域課題の洗い出しを行いました。また、最終のワークショップでは、グループで整理した課題の解決につながる「地域でやってみたいこと」を共有して、どのように協働するのかについて話し合いました。実現に向けた行動計画を作成する際には、「子ども食堂をやってみたい」や「子どもたちが集まる場を作りたい」といった具体的な活動内容が出されました。

ワークショップ終了後には、参加者を中心に地域のコアメンバーを選出し、地域づくりや地域活動についての

話し合いが設けられ、「北東部コミュニティ陸」が発足しました。

○北東部コミュニティ陸の活動

「北東部コミュニティ陸」は令和五年度に発足した北東部地区で地域活動を行う団体です。これまで「北東部納涼盆踊り祭」や全国火災予防運動に合わせた夜回りを実施しました。

盆踊り祭では、北東部地区の若者が中心となり、地域を巻き込みながら開催の準備を行いました。例えば、会場内に設置する灯籠の障子紙貼りや地域サロンに依頼したほか、小国



高校木工部が竹灯籠を作製するなど、年代や地域を問わず多くのかたから協力を受けました。

また、秋に実施した夜回りでは、子どもたちが拍子木を持って北東部地区を練り歩き、火災予防の啓発を行いました。これは、地区のかたから「昔は夜回りをしていた」という話を聞き、それに興味を持った睦のメンバーが復活させたものです。

北東部コミュニティ睦代表の遠藤成晃さんはこれまでの活動について、「地域のコアメンバーでの話し合いの中から睦ができました。年代が近い人だけではなく、幅



広い世代から仲間を集めており、『楽しいことがしたい』という思いで活動をしています。北東部地区のなかには育成会がない地区もあり、睦の活動が子どもたちの思い出づくりの受け皿にもなるといいと考えています。今後はもつと地域のかたに興味を持ってもらえるような団体になるよう、体制を整えていきたいです」と語ってくださいました。

○協働の地域づくりに向けて

「協働の地域づくりを進めるためには、その地域に合った協働の形を見つけることが重要です。ある地区で成功したやり方を他の地区に導入しようとしても、条件や地域の課題が異なるため、うまくいかないことが発生します。今年度、実施しているまちづくりパートナーシップモデル事業では、このようなミスマッチを防ぐため、地域とパートナー職員が話し合いながら、その実情に合った協働の形を模索しています。

本町では今後も「地域支援職員派遣制度」の導入について検討を続け、協働の地域づくりを推進する事業に取り組むとともに、誰もが生き生きと幸せに生活できる「暮らしやすい」まちづくりを目指します。

白鷹町

白鷹町は、山形県の南西部、置賜盆地の北部に位置し、東西約十七km、南北約十六kmのほぼ正方形に近い形をしております。本町は、朝日連峰、白鷹丘陵により三方が山で囲まれた盆地を形成し、その中に水田が広がる自然豊かな町です。春の古典桜、夏の紅花、秋の鮎、冬の蕎麦と、四季それぞれの素材をテーマにした観光四シーズンの推進により、交流人口の拡大が図られています。特に、紅花については、山形県内生産量の約六割を占め、生産量日本一の町として、「日本の紅（あか）をつくる町」を掲げ、シラタカ・レッド商品の開発や交流、健康づくりなど、紅をテーマとした地域活性化に取り組んでいます。

令和六年度は、第六次総合計画の前期基本計画の最終年度であります。その前期基本計画の将来像の実現に向け、それぞれの特色ある地域資源を生かし、相互補完し連携するコンパクト・プラス・ネットワークによるまちづくりの考え方を基本としています。

また、SDGsの視点を踏まえつつ、人材確保、DX推進、脱炭素化の実現の視点をもって、重点四分野である「人づくり」「産業・経済」「地域力」「定住化」を施

策の柱として着実に進め、暮らし・社会・経済が統合する持続可能なまちづくりを目指しています。特に、多様な人材確保に向けて新たな人の流れを形成する取組や、子育ておよび若者世帯の希望を叶える環境の整備や支援、魅力的な地域づくりへの支援など、人口減少対策を総合的に講じ、未来につながる暮らしを大切にするため、職場や住環境に加えて、子育て環境も含めた近接化を目指す本町版「職住育近接」の実現に向けた取組を進めることで、定住人口を確保し、持続可能なまちづくりを進めていきます。

「しらたかマルチワーク事業協同組合」の設立

町では、歯止めのかからない人口減少に対応するため、移住定住促進、町内産業の担い手確保、地域づくり人材の育成を目的



しらたかマルチワーク事業協同組合の設立

として、マルチワーカーを派遣する組合「しらたかマルチワーク事業協同組合」を設立しました。事業の趣旨に賛同した十七事業者の方々が加入し、町の人材ベースキャンプとして役割を担っていただくことを期待しているところです。今後、より地域を好きになり、応援してくれる方を増やすとともに、町の産業や文化・暮らしを将来も継続していけるよう、町としましては支援を進めていきます。

【持続可能な循環資源の利用】 く白鷹町ゼロカーボンシティ宣言】

白鷹町では令和三年十一月にゼロカーボンシティ宣言を行い地球温暖化対策への決意を表明し、併せて地球温暖化対策実行計画を策定しております。これらに基づき、町民・事業所・行政が一体となってゼロカーボンの実現へ向かうことができます。本年七月には東京都三鷹市と森林環境



譲与税の活用に関する協定を締結しました。町内の森林整備の財源として、三鷹市の譲与税も活用させていただきます。今後とも豊かな自然環境を守り、次世代へ引き継いでいくため、白鷹町は二〇五〇年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」へ挑戦していく所存です。



ゼロカーボンシティ

飯 豊 町

〈貸工場に三菱鉛筆株式会社の入居が決定〉

東山工業団地内に町が整備した貸工場に、筆記具製造の三菱鉛筆株式会社の入居が内定しました。川西町にある山形工場の鉛筆製造機能の一部が移転され、令和六年度中の稼働が予定されています。

貸工場は令和二年十二月に建設されました。これまで利用企業の誘致を進めてきた結果、三菱鉛筆株式会社を選定しました。使用期間は二十年で、使用料は年三四〇〇万円を予定しています。

三菱鉛筆は、子会



貸工場として稼働予定の建屋

社を含め、川西町に鉛筆、ボールペン製造の三拠点があります。移転対象はJ・R羽前小松駅近くの直営工場で、旗艦ブランドの鉛筆と色鉛筆の一部を除き、飯豊に生産機能が移り、従業員約五十人が配置転換となる予定です。

〈義務教育学校「いいでの森学園」開校します〉

町内の全ての小・中学校を統合した新しい「義務教育学校」の開校に向けた準備が進められています。新しい学校の校名は、「いいでの森学園」に決定しました。

「いいでの森学園」の校名は▽飯豊町に生まれ育ったことを誇りに持つてほしい▽木々と多様な植物がある森のように一人一人の個性を生か



義務教育学校として生まれかわる飯豊中学校校舎

した学校をつくりたいーなどの願いが込められています。義務教育学校は置賜初で、町内の四つの小学校と飯豊中を再編して九年間の一貫教育を行っていきます。

〈めざみの里まつり2024開催〉

九月七日、いいでめざみの里まつりが開催され、町内外からたくさんのお客さまが来場され、町一番のお祭りを楽しみました。

今年のメインイベントは十四年ぶりの開催となった「獅子舞共演会」です。町内四つの御社の迫力ある獅子舞が披露され、多くの観衆がその雄姿をカメラに収め、大きな拍手が送られていました。夕方からは、町のアンテナショップが



めざみの里まつり

あり、交流が活発に行われている東京都杉並区高円寺の天狗連による高円寺阿波おどり、五年ぶりとなっためざみの里WA踊り、team艶YA沙によるダンスなどが披露され、会場内は熱気に包まれました。祭りの締めくくりは打上花火。大輪の花火が飯豊の夜空を彩りました。

〈白川湖の水没林〉

白川湖に春の雪解け水が流れ込み、満水の時期を迎えると、シロヤナギがあたかも湖面上から生えているかのような、幻想的な光景を見ることが出来ます。まさに湖水に浮かぶ自然のアート。三月下旬から五月中旬まで、約二か月限定の神秘の風景をご覧いただくことが出来ます。

◆白の水没林

三月下旬～四月中旬、白川湖の水没林の木々が芽吹く前は、湖岸の残雪とともに白に包まれる静寂の世界が広がります。この季節は「白の水没林」。水面に映る空の青さや、残雪の山のシルエットが素晴らしい季節です。湖面に残る氷を割りながら進むカヌーツアーも見どころの一つです。

◆緑の水没林

四月中旬～五月中旬、シロヤナギが芽吹きはじめ、湖面の色もより一層濃い緑色に輝く「緑の水没林」になります。川鳥のさえずりを聞きながら、おだやかに景色を楽しめます。

五月下旬田植えの時期になると徐々に水位が下がり、湖から地面が現れ、夏の白川湖の姿に変化していきます。

◆水没林ライトアップ

白川湖の水没林は夜も魅力的です。風が少ない夜間はライトに照らされたシロヤナギが幻想的に湖面に美しく映り込みます。キャンプサイトの目の前ですので、焚火をしながらゆったりとライトアップを楽しめます。

さらに、土日祝日は水没林バーも開催。カウンター越しに、煌めく水没林を眺めながらドリンクを楽しめる、最高のくつろぎ空間が演出されています。

◆カヌーツアー

大自然に囲まれた湖の中をカヌーでめぐれることも可能です。青空と白い雲、鳥のさえずりに包まれながらの湖上散歩は、ちょっとした冒険気分です。経験のない初心者の方でも安全に楽しく体験することができますよう、漕ぎ方から丁寧にレクチャーいただけるツアーも人気です。



白川湖の水没林

二〇二二年度 置賜地区高校生

「地域と私たちの未来を考える」小論文コンテスト

近年日本の人口が減少する中、私たちの住む置賜地域も確実に人口が減少しています。このまま推移すれば、地域を支える人材や働き手が不足するだけでなく、地域の安全・安心や伝統・文化の維持存続が益々懸念されます。そして、このような人口減少の要因の一つに、高校生の進学・就職で県外に出て、戻ってくる人が少ない「若年層流出」があげられています。こうした状況下において二年後に進学・就職を迎える高校二年生が、地域に育つ当事者として、この地域の未来を見つめ、自分の将来の生き方を考えることは、どのような進路を選ぶにしても非常に大事なことです。以上のような趣旨から、「置賜地区高校生『地域と私たちの未来を考える』第七回小論文コンテスト」を、高校二年生を対象に実施いたしました。テーマは「人口減少社会の中でも持続可能な地域とするため、地域の未来と私の生き方を考える」です。四校から総数九十七名の応募があり、喜んでおります。応募された生徒の皆さんとご指導いただいた先生方に心から御礼申し上げます。

小論文を読みますと、資料編を活用しあるいは探究学習や自分の体験、知見を基にして、この地域の未来のあり方を様々な視点から提案し、また自分の生き方を模索しており、趣旨に沿った小論文をまとめてくれました。応募者にとっては、この小論文に取り組んだ経験が将来必ずどこかで役立つものと

と確信しています。

一つの小論文を七名の委員により審査を行った結果、優れた小論文とされたものうち、最優秀賞一点、優秀賞四点を以下に掲載します。高校生や地域の方々に広くお読みいただき、地域の未来を共に考えていきたいと思えます。

令和六年十月二十二日

高校生小論文コンテスト実行委員会

第七回テーマ

「人口減少社会の中でも持続可能な地域とするため、地域の未来と私の生き方を考える」

優 秀 小 論 文

最優秀賞

県立小国高等学校

二年

染谷 柚乃

優秀賞

学園都市推進協議会会長賞

県立小国高等学校

二年

井手 吾南

米沢商工会議所会頭賞

県立小国高等学校

二年

佐々木莉珠

長井商工会議所会頭賞

米沢中央高等学校

二年

高橋 都

米沢信用金庫理事長賞

米沢中央高等学校

二年

星 知里

未来をつくる

山形県立小国高等学校 二年

染谷柚乃

今年の夏、「星がこんなに近くにある。きれいなあ。」と、芝生に寝転がって見る満天の星空に息をのんだ。

去年の夏、大人も子供も誰もが楽しんでいる小国町に一目惚れし、小国高校への留学を決めた。実際、道行く人との挨拶や熊まつり運営など、体験や対話からの学びは深く、想像以上の幸せな日々だ。その一方で、小国町から離れて生活したいと考える人が一定数いることも知った。資料の推計人口によると、三十年後の小国町の人口は、現在の半分以下になっている。自治体消滅の危機に直面している小国町にとって、また、小国高校生・留学生である私にとっても、この問題は

重い。

私は、小国高校で開催された全国高等学校小規模校サミットの、コアメンバーに立候補した。私は初め、他校生とともに地域課題について考えることが、サミットの肝だと捉えていた。しかし、それ以前に、生徒同士の交流が無ければ、一緒に課題を考えることすらできない。交流こそが問題解決の基盤なのではないかと思うようになった。熊まつりもそうだった。交流があつて初めて友情や繋がりが生まれ、同じ課題に向き合える。地域課題は、一人で解決できるようなものではない。だからこそ、仲間を知って思いやり、そこから生まれた温かな繋がりを大事にして、ともに考えることが大切だと思った。

その後、山形県北方領土青少年等視察事業に参加した。国後島元島民の、今もなお故郷に戻れない寂しさや虚しさを聴き、胸が潰れるような気持ちになった。故郷とは本来、誰もがいつでも帰れる重要な場所のはずだ。小国町を守りたいと強く思った。

私は、これからやりたいことが二つある。一つ目は、地域に自ら積極的に出ていくことだ。地域サロンや農

優秀賞

学園都市推進協議会会長賞

小国町で見つめ直す、私と地域の未来

山形県立小国高等学校 二年

井手吾南

作業の手伝いを通して、長く生活したからこそ育まれた文化や知恵を知ることや、私自身のことについてじっくりと深く耳を傾けてもらえることの喜びを知った。今までは、誰かに誘われて行くことが多かったが、これからは自分から声をかけて行動していきたい。

二つ目は、星空を題材にしたイベントを企画することだ。イベント作りという発想は、今までの私にはなかった。しかし、小国町の星空をはじめとする素晴らしい魅力や、地元の人や他地域の方々と一緒に味わう交流の場を作りたいと思うようになった。理由は、交流の大切さに気がついたからだ。交流を通して、「小国町好きだなあ」とみんなで思えること、これが故郷を残す第一歩になる。とりわけ、SNSでは情報収集がしにくい小さな子供や高齢の方にとって、直接体験できるイベントは大切な機会だと考えている。

今日もきれいな星が瞬いている。まるで私を応援してくれているかのようだ。私もあの星のように小国町で輝いていきたい。

山形県立小国高等学校。この学校は全国から多くの留学生が集まり、学年の三割が他府県からの生徒である。私もその一人だ。「地域みらい留学」という制度を利用し、東京から一年間の留学にきている。東京では選択肢が多く便利さはあるが、人ごみの多さに時々息苦しさを感じるがあった。東京と比べ、小国町はどこに行くにも時間がかかるが、その不便さこそが豊かな自然環境を守っている。雄大な山々に囲まれ、透き通った川で遊ぶ体験はかけがえのないものだ。

現在、多くの学校で海外留学制度が導入されている

一方で、国内留学を推奨する学校は少ない。私は、卒業後の進路に大きな影響を与える中学や高校のうち自分の住む地域だけでなく、国内の他地域についても深く知るべきだと考える。机上の勉強だけではなく、実際に他地域の人々と生活を共にすることでしか得られない貴重な学びが必ずある。また様々な地域から集まった友人との交流は非常に刺激的で、大きな影響を与えてくれる。

先日行われた「小規模校サミット」に、私は運営メンバーとして参加した。仲間と議論を重ね、地元で多く生産されているブナの木で箸を制作したり、地元食材を使った郷土料理を提供したりするというおもてなしを通じて、小国町の魅力を伝える試みを行った。地域の方々が積極的に協力してくださり、小国町への強い愛情を改めて知ることができた。当日、参加者が喜ぶ姿を見て、これまでにない達成感を味わうと同時に、この町を好きになり始めた自分に気づいた。地域の行事が多く、留学生も気軽に参加でき、世代を超えた繋がりが生まれているのもこの町の魅力の一つだ。また、経験は普段意識していなかった東京の良さや課題にも

気づかされ、この学びは将来の進路選択において大きな糧となると今、強く感じている。

私は、人口減少が進む社会において持続可能な地域を創るために、国内の中高生を対象とした留学プログラムを拡大する一助になりたい。学校間の交流を促進し、各地で学べる環境を整えば、地方に目を向ける学生、ひいては未来を支える人材が増えるだろう。更に高齢者から伝統や歴史を学ぶ機会が増え、地域の活力向上も期待できる。こうした経験は自分の住む地域の魅力や課題を再発見し、広い視野を養うことができる。と考える。人口減少が進むにつれ、若者が集まる「学校」は地域の中で非常に重要な存在となる。小国高校は地域に根差した活動を行っており、地域社会を支える中心的な役割を果たしている。小国での生活を通じて、地域の未来を考えると同時に、自分の生き方を見つめ直す機会を得た。残された留学期間で小国町をさらに深く知り新しい挑戦を続けることで、持続可能な地域づくりに貢献できる生き方を探っていきたいと思う。

私が町にできること

山形県立小国高等学校 二年

佐々木 莉 珠

資料によると、私が住んでいる小国町の人口減少率は最も深刻で、二〇五〇年には現在の約四六％の人口になります。将来、私が県外に就職して小国町を離れることは、町の人口減少に繋がりが、小国町や山形県にとって良くないことなのかもしれません。しかし、私は、県外で頑張りたいと思う気持ちも強く、小国町の人口減少問題は、私には解決できない難しい問題だと思っていました。

小国高校では、二年生の総合的な探究の時間に、地域課題の解決策を考えるマイプロジェクトがあります。そのマイプロで、私は、自分の地域のために何ができるのか考えました。最初は全く想像もつかない中、

自分が興味を持っているメイクと小国町の豊かな自然や畑と掛け合わせられないか考えはじめました。私は、道の駅でアルバイトをした経験から、小国町のお土産として、野菜やお菓子はあるものの、美容系のお土産は一つもないのはなぜだろうと思っていました。そんな時、昔見た映画やドラマなどできゅうりパックをしているシーンを思い出し、野菜からリップを作れないかと思いました。リップを塗ると一気に華やかさが増し、顔の印象が変わります。それほど影響力のあるメイク道具を、小国町の野菜を使って私が作ればいいのではないか。調べてみると、自分でも簡単に作れそうだとということもわかり、挑戦心が湧きました。今後、ウェブサイトを参考にして試作品を作って使用感を調査し、何度も作り直してよりよいものに仕上げます。最終的には、商品化するのが今の目標です。

それを道の駅で販売することはもちろんですが、それに加えて、より多くの人に知ってもらうためSNSも活用していく予定です。私は、母や妹と一緒にカフェ巡りをするのが好きで、インスタグラムに何度も投

長井商工会議所会頭賞

若年層の人口減少について

米沢中央高等学校 二年

高^{たか}橋^{はし} 都^{みやこ}

稿しています。「行きたい」・「行ってきたよ」と言われると、私が選んだものや私自身のセンスを褒めてもらえたようで、とても嬉しくなります。同時に、SNSがどれだけ周りの人の行動を変えるのか、その影響力の大きさも実感しました。だから、リップのPRのために、SNSを活用することを考えています。そう考えていた時、ふと気がつきました。将来、私が県外の就職先から帰省した時、お祭りや花火大会などに参加して、その魅力をSNSに投稿することで、小国町を離れていてもPRが出来る、と。私の投稿を見た人が行動を起こし、それをきっかけに小国町に住みたいと思ってもらえたら、県外在住であったとしても、小国町の人口減少を食い止めることに貢献することができます。

このことに気づいてから、私は、大好きな小国町と私自身に、ますます誇りを持つようになりました。そして、来年は、自信を持って進路選択ができそうです。まずはリップ作りを一生懸命頑張りたいです。

私たちの住む置賜地域では、人口減少が激しく、将来も減少していく推計が資料一で示されている。資料一を見ると、山形県全体よりも置賜地域の方が、人口の変化が激しいことを読み取ることができる。私が住んでいる川西町では、人口変化が四十八・八パーセントと、置賜内で二番目に激しい。どうしたらこの問題を解決することができるだろうか。

資料二を見ると、人口が減る原因は転入者よりも転出者が多いことだと読み取ることができる。特に若年層の転出超過は、山形県全体の約七十九パーセント、置賜全体の七十二パーセントと、とても多い。この若年層の転出を減らし、転入を増やさなければ、山形県

の人口減少は進んでいくだけだ。では、なぜ若年層がこんなにも転出してしまうのだろうか。

資料三を見ると、高校卒業者の県外への進学、就職が主な原因であることがわかる。特に、大学進学者数のうち県外へ出ていった割合が約七十四パーセント（令和四年）である。大学進学で県外に出ていく人を減らす方法として、県内の大学をより充実させることが考えられる。しかしこれ以上、大学を増やすことは、経営していくことが難しくなってしまう。そのため、県外へ大学進学していった人が県内に帰ってくる、Uターンを増やすことが重要である。

Uターンを増やすためには、若年層に「山形県で就職したい、暮らしたい」と思ってもらうことが必要だ。山形県で行われた『若者の県内定着・回帰の促進に向けた県外進学者の県内企業への就職に係る実態調査』では、Uターンを希望しない理由として「志望する業種・職種がない」という記載が、圧倒的に多い。しかし、山形県には多くの企業があり、特に置賜では、中小企業が多い。それらの魅力を伝えていくことが必要であ

る。私も、置賜にこんなにも様々な中小企業があると、中学まで知らなかった。また、まだまだ知らない部分もたくさんあると思う。それらを伝えていくためには、情報社会である現在、情報を発信していくことが必要である。置賜の魅力を若年層が見通すようなサイト・アプリに発信すれば、「置賜、こんな職場があるんだ」と気づき、戻ってくる若年層が増えると、予想している。Uターンが増えればおのずと、山形県の人口が増え、持続可能な社会となるだろう。

私の将来の夢は小学校教師だ。第一志望の大学は県外にある。そのため、私はその県で教員採用試験を受けるつもりだった。しかし、この小論文を書いていくうちに、山形県で教員採用試験を受け、地元の子供達に地元の魅力を伝えられる教師になりたいと思った。それは、私が山形でしかできないことだからである。持続可能な地域を作っていくために、私自身が行動していく。

地元の未来を創造する

米沢中央高等学校 二年

星^{ほし} 知^ち 里^{さと}

私の地元である米沢では、近年子供の数が減少している。それに伴い、米沢市ではいくつかの学校が統合される予定である。私を成長させてくれた学び舎も数年後には無くなってしまうのだ。このような現実を受け止め、これ以上若い世代の人口を減らさないためにはどうすればよいのだろうか。

現在、私は様々な大学の情報収集を行う中で、県内の大学では選択肢が限られてしまうことを実感している。資料二・三からも分かる通り、特に若年層の転出超過が多いが、進学や就職を希望する若者のことを考えると県外流出を抑制することは難しい。Uターンに關しては、県で既に奨学金返還支援としてUターン促

進枠を設けるなどの政策を行っているため、Uターンを重視するべきだと考える。

資料に掲載されている「平成二十七年厚生労働白書」に記されているように、都市住民の約四割が地方への移住意向を持っている。また、家族の変化や子育てを理由に地方への移住を考える人が多い。このことから、都市住民の中でも、結婚や出産を機に移住を考えている若者をUターンの対象にすべきだ。

では、人々をこの山形に呼び込むためにはどうすればよいのだろうか。まず必要な事はインフラの整備だろう。地方は都市部ほど交通の便が良くないため、マイカーを持つ必要がある地域が多い。そのため、バスの運行数を増加させたり、バス停の数と範囲を広げたりすることで、車無しでも生活できる場所にするのが効果的である。また、子育てをする上で近くに遊べる施設があることは必要不可欠だ。しかし、私達子どもからみても地元には子どもが楽しめる施設は少ない。そこで、山形の魅力の一つである自然を存分に活かした大規模なネイチャーパークなどの建設を行え

ば、子供の健康増進にも繋がり、豊かな自然の中で子育てがしたいという人々も惹きつけることができるだろう。

そして、私は地方自治体が「移住プラン」を作成することで、より移住しやすくなると考える。もし移住したいと思ったとしても、住む場所や仕事を一から探し、それからその地域に馴染むことは難しい。そこで、自治体が移住者と地域との橋渡しの存在となることで、安心して移住できるようになるだろう。移住プランでは、雇用支援や金銭的支援に加え、要望に沿った住居をこちらから提案する。特に住居は、少子高齢化の影響でさらに増加していくと考えられる空き家を改装することで、住居をより安く提供することができ、同時に空き家問題の解消にも繋がると考える。

このように、都市部からのＩターンを増加させるために、子育てのための環境整備や、移住者に寄り添った支援を充実させていく必要があると考える。また、次の世代を担う私達が、一番に地元の魅力を理解し、SNSを利用して積極的に情報発信していきたい。

第七回小論文コンテスト表彰式

「置賜地区高校生『地域と私たちの未来を考える』第七回小論文コンテスト」の表彰式が十月二十六日（土）、ホテルモントビユー米沢で行われました。今回は、平山英三米沢有為会会長や近藤洋介米沢支部長、小国高校の校長先生、米沢支部役員等が参加して開催されました。

表彰式では、まず近藤米沢支部長からの祝辞があり、近藤支部長の記者時代のことを念頭に受賞論文はそれと遜色のない大変優れた文章であると称えられました。

続いて、横井博小論文コンテスト実行委員長からコンテストの概要等について触れながら挨拶がありました。その中で、(一)第七回コンテストの論議は第六回の審査終了後行われ、高校の担当教員との情報交換から参加者数は三百三十名程に及んでいることが分かり、第六回とほぼ同じ骨子で実施したこと、また自主的に取り組む高校生を支援するためにコンテストガイドンスを作成したこと、(二)応募者は四校から九十七名に及び、その最終審査は七名の審査委員の審査結果が反映されていること、受賞者十一名の平均点が七十八点で僅差の順位であったこと、(三)このコンテストのねらいは、人口減

高校生第7回小



平山英三会長 挨拶



横井博実行委員長 講評

少社会の中でこれから地域の担い手の当事者となる高校生二年生が地域の未来を見つめ、自分の将来の生き方を考えることにあること、当コンテストの成果は三段階に想定され、第一段階の成果である地域の実情を知り何らかの考察が行われたと思われる小論文が多数あり、コンテストのねらいは達成され、さらに受賞小論文は自分の生き方の考察に及び大変優れた小論文であった、と振り返りました。そして、これからの社会人の生活や仕事で直面する問題への対応のために小論文で培った提案力や主体性を鍛え続けてほしい、と結びました。

慎重な審査を経て、最優秀賞一名、優秀賞四名、入選六名が選ばれましたが、出席された九名の各受賞者に、平山米沢有為会会長から賞状と副賞が授与されました。続いて、平山会長が祝辞を述べ、回を重ねるごとに課



最優秀賞受賞者

題の論点が適切に把握されてきている、少子化という言葉は知っていたが、この課題に取り組んで初めて地域の実情を知って驚いたという声も多く、地元の現状と自身の将来を考えるきっかけになっていることにこのコンテストの意義を感じている、さらに問題意識を磨き続けてほしい、と激励しました。

十一名の小論文は、審査講評・募集要項・資料を含めて、『優秀小論文集』として発行され、出席者や高校などの関係者に配付されました。



受賞者記念写真

審査講評

第七回の小論文コンテストには、四校から九十七名の応募がありました。今回も、高校生のみずみずしい感性や読み応えのある小論文がたくさん寄せられたことを感謝しております。

回を重ねてきたためか、論点把握が適切になり、①少子高齢化の進行②若者の県外流出③Uターン促進の必要性④地域の魅力発信や誘致策の提案が共通の理解になってきたように思います。自分の経験や地域への強い思いも表現され、解決に取り組む姿勢が見られました。反面、具体的な提案内容や論理展開に類似のものも多くありました。また、観察や対応策の提案に深みが感じられないものや観察の記述を省略したのも見受けられます。対応策や改善についての記述内容が、既に実行されている事例の紹介に留まるのか、本人の提案内容なのかが判然としないものもありました。もう一段の工夫をお願いしたいところです。

応募者の問題意識の深さや取り組みの姿勢の違いから、現状把握や提案内容に、大きな差異が出てきています。既に具体的な対応策に取り組んでいるものもいれば、ようやく問題の所在を知ったものもあります。しかし、知らなかった問題に気が付き、継続して取り組んでくれれば、コンテストの目的の一つは達成されたといえます。

残念に思えたのは、せっかく良い提案をしながら、その提案が自分とどう関わるのか説明が十分でないものも見受けられたことです。テーマに「地域の未来と私の生き方を考える」とあるように、自分の生き方として課題解決に取り組み、社会の未来と私の生き方を通して持続可能な地域のあり方を主体的に展開していったほしいと思いました。

今回応募してくださった高校は四高校で、応募校数が減少したことはとても残念です。多くの高校からの応募を願いますが、添付の資料から県内定住やUターンを期待するこちらの意図が見え、県外への進学や就職を考えている生徒諸君には、応募しにくい課題だったかもしれません。しかし、県外、国外に目を向けた自分の志に取り組み、郷里を離れていてもその今後の姿を考え、対応策や生き方を提案していくことはできるのではないかと思います。多くの方のご応募をお待ちします。

置賜地区高校生「地域と私たちの未来を考える」第七回小論文コンテスト 応募要項

一. 趣 旨

近年日本の人口が減少する中、私たちの住む置賜地域も人口が減少し、将来も減少する推計が示されています。このまま推移すれば、地域を支える人材や働き手が不足するだけでなく、地域全体の衰退に結びつくものと懸念されています。人口減少の様々な要因の一つに、若年層（十五〜二十四歳）が進学・就職で県外に出て、戻ってくる人が少ない「若年層流出」があげられています。このような現状を踏まえて、地域と私たちの未来をどのようにつくり上げていくべきなのでしょう。高校二年生の皆さんにとって、今まさに地域に育つ当事者として、この地域の未来を見つめ、自分の将来の生き方を考えることは、どのような進路に進むにしても大事なことです。当コンテストは皆さんが地域と自分の未来を考える契機になることを願い、実施するものです。

二. テーマ 三. 対象者

置賜地区高等学校二年生

四. 応募規程

- ① 応募要項の資料編や独自の資料を参考にして、テーマについて考えをまとめてください。また、各自の題名を付けてください。
- ② 文字数は一二〇〇字以内(四〇〇字詰め原稿用紙三枚以内)、一〇〇〇字以上を目安とします。
- ③ 原稿用紙は縦書きに、一行目に題名、二行目に学校名・氏名、三行目から本文を書いてください。題名、学校名・氏名も字数に数え、不記載は減点にします。
- ④ 使用鉛筆はB又は2Bを用い、字は大きく鮮明に書いてください。

五. 審査の観点

- ① 観察力 現状を注意深く見て学習し気づきを得ているか。
- ② 提案力 独創性に富み前向きな提案であるか。
- ③ 主体性 自分が課題解決にどのように具体的に関わっていくか。
- ④ 論理性 客観的、合理的な論理展開ができているか。
- ⑤ 表現力 字は大きく鮮明（読みにくいものは減点）に書き、誤字脱字がなく、言いたいことを十分に伝えている文章と題名であるか。

この五つの観点を踏まえた小論文を書いてください。この観点で評価します。
各学校の担当者まで
各学校で指定する期日まで

六. 応募先
七. 応募締切

各学校から米沢有為会米沢支部事務局への提出締切日 九月三日（火）〔必着〕

八. 表彰

最優秀賞一点 優秀賞四点 入選五点
十月二十六日（土） 米沢市内ホテルにて

九. 表彰式

米沢有為会会長 平山英三

十. 審査委員長

公益社団法人米沢有為会 学園都市推進協議会

十一. 主催 共催

置賜総合開発協議会 置賜地区高等学校校長会 米沢商工会議所 長井商工会議所

十二. 後援・協賛

米沢信用金庫 NCV株式会社ニューメディア



（注）この応募要項・資料編や今までの優秀小論文並びにこのたび新たに作成した第七回小論文コンテストガイダンスを、右のQRコードからご覧になれます。

資 料 編

■ はじめに、山形県及び置賜地区の人口の動きを、将来推計人口(資料1)、県外転入・転出状況(資料2)、山形県高校卒業者の県外への進学就職状況(資料3)のデータから見てみましょう。

資料1 山形県及び置賜地区市町別の将来推計人口

	2020年	2030年	2040年	2050年	人口変化率 2050/2020
山形県	1,068,027	945,122	827,776	710,838	66.6%
米沢市	81,252	71,907	62,506	53,112	65.4%
長井市	26,543	23,140	20,005	16,881	63.6%
南陽市	30,420	26,419	22,851	19,390	63.7%
高畠町	22,463	19,257	16,549	13,826	61.6%
川西町	14,558	11,636	9,253	7,107	48.8%
小国町	7,107	5,591	4,345	3,298	46.4%
白鷹町	12,890	10,489	8,490	6,660	51.7%
飯豊町	6,613	5,435	4,422	3,508	53.0%
置賜	201,846	173,874	148,421	123,782	61.3%

出典：国立社会保障・人口問題研究所

置賜地区では、2050年の人口が2020年と比較して39%減少すると推計されています。

資料2 山形県(置賜)の県外転入・転出状況(令和4年10月～令和5年9月)

	県外転入 a	県外転出 b	転出超過 b-a
山形県全体	14,862	18,023	3,161
若年層	4,297	6,804	2,507
置賜全体	2,690	3,417	727
若年層	835	1,361	526

出典：令和5年山形県の人口と世帯数

令和4年10月～5年9月の山形県(置賜)の県外転入・転出状況は、3,161(727)人の転出超過です。

また、山形県(置賜)の若年層(15～24歳)の転出超過は2,507(526)人となっており、高校や大学等の卒業や就職を迎える若者層の転出超過が多く、県人口減少の大きな要因の一つになっています。

資料3 山形県の高卒卒業者の県外への進学・就職状況

	卒業者数	大学等進学者 数(うち県外)	専修学校等進学 者数(うち県外)	就職者数 (うち県外)	計 (うち県外)	県外の 割合
令和4年度	8,998	4,450 (3,251)	2,137 (1,212)	2,272 (449)	8,859 (4,912)	55.4%
令和5年度	8,767	4,282 (3,160)	2,124 (1,238)	2,158 (442)	8,564 (4,840)	56.5%

出典：令和5年度学校基本調査卒業後の状況調査山形県結果

令和5年度の高卒卒業者のうち、およそ57%が進学や就職で県外に出ています。

■ 置賜地域とはどのような地域でしょうか。それに関連する資料として、置賜総合支庁作成の『令和5年度置賜地域の概況(令和5年7月)』があります。

資料 [r5okitamagaikyo0.pdf \(pref.yamagata.jp\)](https://www.pref.yamagata.jp/r5okitamagaikyo0.pdf)

また、山形(県)には、ゆとりのある暮らしと充実した子育て環境があります。「山形県の暮らし」から見てみましょう。例えば、次のようなことです。

資料 <https://yamagata-iju.jp/pref/number.pdf>

仕事	高い正規雇用率と共稼ぎ率(全国2位)、短い通勤時間(東京の半分以下)、仕事からの帰宅時間が早い、有給休暇取得率が高い、育児中の女性の就業率が高い	
子育て・教育	待機児童数「ゼロ」、安い教育費(東京の半分以下)、一人ひとりに丁寧に向き合え、地域の魅力や伝統に触れられる教育環境	
暮らし	住まい	安い住宅購入費用(東京の60%)、高い持ち家比率(75%)
	安心・安全	低い犯罪率(全国6位)と高い検挙率(全国1位)
	お金	東京と比べ、収入差は約7万円/月であるのに対し黒字額の差は約2万円/月

次に、国(厚生労働省)は人口減少社会についてどのように考えているのかについて、『平成27年度厚生労働白書』から見るすることができます。その概要版の資料を下記からご覧になれます。この資料は難しいかもしれませんが、挑戦してみてください。

資料 <https://www.mhlw.go.jp/content/000351674.pdf>

■ 人口減少の一因である「若年層流出」等の状況を統計データで見ましたが、これに歯止めをかける様々な対策が講じられています。それらの取組を紹介しましょう。

資料4 置賜圏域の将来像・行政施策「置賜定住自立圏共生ビジョン」の取組例

人口減少や高齢化は急速に進んでおり、今後も、こうした傾向は続くものと予測されます。急激な人口減少は、労働力人口の減少による地域経済の縮小、担い手不足による地域活力や地域機能の低下、社会基盤の維持管理コストや社会保障費の増加等による自治体財政の悪化などを招き、さらなる人口減少を引き起こしてしまうといった悪循環に陥る危険性ははらんでいます。こうした状況の中、今後も、地域の活性化を図り持続的に発展していくためには、単独自治体での事業展開には限界があることから、広域で連携し、効果的、効率的に行政運営を行うことが必要です。また、自治体間の連携に加え、圏域内の関係団体、事業者、住民等との協働を推進することで、さらなる相乗効果が期待されます。このような認識の下、置賜圏域の8市町は、それぞれの独自性を維持しながら、地域の魅力をしっかりと磨き、その上で様々な分野において連携を深めつつ、住民の暮らしに必要な諸機能を圏域全体として確保することで、住民が暮らしやすい、活力ある圏域を創造し、共存共栄を目指します。置賜圏域のかけがえのない財産を次世代に引き継ぎ、圏域全体が未来に向けてさらに発展するよう、医療や福祉、子育て・教育の充実を図り、置賜の持続的発展を支えるとともに、中心市である米沢市の特色である学園都市の強みを生かして大学等と連携し、地域経済を活性化させ、人々の交流で賑わう社会基盤を形成することで、魅力あふれる圏域を目指し前進していきます。

出典：置賜定住自立圏第2次共生ビジョン(令和6年3月策定)「圏域の将来像」から

資料5 若者定着・若者回帰に向けた県内の諸取組の紹介

【事例1】 山形県と大学等とのUIターン就職促進協定 29大学等と協定を結ぶ

山形県では、山形県内の企業情報等の提供、大学内での就職ガイダンスの開催等について、大学等と連携して取り組むことにより、Uターン・Iターン就職の一層の促進をはかり、県内企業の人材を確保することを目的として実施している。

<協定締結大学 令和5年11月19日現在> 東海大学、神奈川大学、専修大学、大東文化大学、日本大学、明治大学、国士舘大学、駒澤大学、東洋大学、文教大学、立教大学、帝京大学、帝京大学短期大学、明治学院大学、立正大学、拓殖大学、立命館大学、法政大学、千葉商科大学、神奈川工科大学、関東学院大学、東京工科大学、日本工学院専門学校、日本工学院八王子専門学校、日本工学院北海道専門学校、東北学院大学、東北工業大学、東北福祉大学、東京農業大学

出典：山形県雇用・産業人材育成課

【事例2】 やまがた就職促進奨学金返還支援事業の実施

大学等に在学中の方を対象として、県と市町村が連携して奨学金の返還の一部を支援する事業。米沢有為会、長井教育会、飯豊町も市町村枠で実施。平成27年度から始まり今年度も継続。要件や手続き等については、山形県の「やまがた就職促進奨学金返還支援事業」をご覧ください。

出典：山形県産業創造振興課

【事例3】 高校生就職希望者や就職者に対する地元への人材確保・定着の諸取組

置賜地区雇用対策協議会（行政機関 [米沢市・南陽市・高島町・川西町] や米沢商工会議所、ハローワーク等が連携し、若者の雇用安定を目指す団体）が、模擬面接会（高校3年生対象）や企業説明会（高校2年生の就職希望者に向けて企業動画を制作）、新規学卒者ビジネスマナー講習会や新入社員フォローアップセミナーなどの諸事業を実施している。求人・求職者の両面からサポートし、雇用の確保と定着、就職支援に取り組んでいる。

また、西置賜地区雇用対策協議会では、企業と繋がる就職サーチアプリから企業の最新募集情報が閲覧できるようになっている。

【事例4】 各高等学校における多様な取組

各高等学校においては課題研究や探究学習における地域学習の展開や、職場見学・体験、インターンシップの実施などを通して、郷土愛を育むとともに、社会的自立に向けた勤労観・職業観の育成を目指した多様な特色ある取組が行われている。

【事例5】 働く人の様子・思いなどをSNSで発信

米沢商工会議所が、若手社員や経営者などへのインタビューにより地域で働く魅力を発信する「よねざわのわわわ」[URL: [米沢商工会議所 \(ginzaikakuhorvamagata.info\)](http://ginzaikakuhorvamagata.info)] プロジェクトを企画・実施。高卒就職者や県外大学へ進学後のUターン、他地域からのIターン事例など幅広い情報をInstagramや動画などで発信している。

<米沢有為会からの一年早めの情報>・奨学金と学生寮の募集案内

米沢有為会では、皆さんが再来年大学等へ進学した後の学生生活を応援するために

- ①3つのタイプの奨学金（貸与型：女子向け住居費補助奨学金2万円と一般貸費奨学金4万円、減免型：地元若者定着奨学金4万円条件を満たせば2万円減免、いずれも無利子）と
- ②東京と仙台に男子学生寮（平日朝夕2食付き、個室、月6.5万円程度）を用意しています。

今から情報をゲットしてみてください。

詳細は米沢有為会HPで（QRコードからどうぞ!）



会員の広場

「句会・漆の実」の活動

小山泰・報

「句会・漆の実」は、当時の米沢有為会会長であった下条泰生氏の発案で発足し、同好の士を募りスタートした俳句会である。有為会会員の鈴木淳一氏が指導者としての役割を引き受けて下さり、平成十七年一月に初句会、以降二十年続いてきた。鈴木淳一氏没後も有為会会員の小山八州史がこれを引きつぎ今日に至っている。一時は十数名の会員を数えた時もあったが、いまは六名の会員となっていました。しかし月一回の句会には会員が顔をそろえ楽しい句会が始まる。たかが俳句であるが、何となく心が引かれるのである。今年の各位の苦作、句作をご披露致します。

(氏名・五十音順)

不意の風鈴見あぐる窓にレース揺れ

太田 甘美

「はっぱきれい」退院の子に緑さす

電柱の白き花束彼岸過ぎ

片山 丹波

ジープジツポビー暗き春暁鳴く土鳩

鯉跳ねて水しぶき浴ぶ春のショー

自転車疾走背の雷雨かな

小山八州史

卒業子父の祝ひは一語だけ

気動車のまた麦秋の野へと発つ

ゴーヤ実るしの字くの字の虚空かな

佐野 眞

耕人の影の近づき父となる

長梅雨や厨に干され茹布巾

濱田 扇風

麻帯に蒼波背負ひ駆け行く

振袖を風に流して卒業す

濱田 扇風

やまざくら散るつぶやきを残すやう

MRI室の無機質走り梅雨

松原 薫子

声がはり混声合唱卒業す

土牢の風に筋あり木下闇

松原 薫子

メモを手を手に路地に入りくる棚経僧

郷土の本紹介 (R5・10～R6・9)

資料提供 — 市立米沢図書館

No	書名	著者名	出版社	分類記号	出版年	内容等
10	戦国大名は経歴詐称する	渡邊 大門／著	柏書房	K288.3	2024.1	戦国時代、謎だらけの武将の出自・家系を、史料の検証をしつつ明らかにする。「上杉氏」も収録。
9	伊達家	J・F・モリス ／著	吉川弘文館	K288.3	2023.11	御家騒動や飢饉など、度重なる困難に見舞われた仙台伊達家。家臣や領民の「不服」の声を聴く統治 家を支えた脇役にも光を当て、仙台伊達家の近世を描く。
8	藤原正彦の代表的日本人	藤原 正彦／著	文藝春秋	K281.0	2024.7	内村鑑三『代表的日本人』に倣って、著者が現代に伝えたい日本人5人を紹介する一冊。上杉鷹山についても紹介。
7	武田信玄と上杉謙信	黒田 基樹／監修	小学館	K28	2024.1	いまなお、ライバルと目されることの多い、武田信玄と上杉謙信の二人。それぞれの人生を紐解く、学習漫画。
6	戦国期地域権力の形成	前嶋 敏／著	同成社	K214.1	2024.6	戦国期の長尾氏・上杉氏を中心に、その権力の移行の過程から形成を明らかにする。
5	長井市史 通史編第4巻	長井市史編纂委員会／編集	長井市	K212.5	2024.3	平成26年から編纂をスタートした『長井市史』の第四巻。現代編となり、町村合併による「長井市の誕生」などを収録する。
4	J・F・ケネディと上杉鷹山	吉田 重雄／著	吉田重雄	K210.5	2024.2	著者の修了論文をベースに修正、追記を行い装丁した私家本。J・F・ケネディが上杉鷹山を尊敬すると発言した都市伝説について論じる。
3	アジア遊学294 秀吉の天下統一	江田 郁夫／編	勉誠社	K210.4	2024.6	「陸奥」「出羽」にわけ、深掘りして論じる一冊。
2	検証川中島の戦い	村石 正行／著	吉川弘文館	K210.4	2024.3	10年以上、数度に渡って展開された川中島の戦い。武田氏・上杉氏・国衆など様々な視点から実像に迫る。
1	御朱印でめぐる東北のお寺	地球の歩き方編集部／編集	地球の歩き方	K185.9	2023.11	御朱印をテーマに東北地方から厳選したお寺を紹介。「上杉家ゆかりの町から温泉へ」として笹野寺(笹野観音堂)など掲載。

No	書名	著者名	出版社	分類記号	出版年	内容等
20	「食」をめぐる山形の地域課題	山形県生涯学習文化財団／編	山形県生涯学習文化財団	K383.8	2024.2	令和4年度の「山形学」講座録。食に注目して社会の課題などを考える。
19	都市祭礼と中世京都	河内 将芳／著	法藏館	K386.1	2024.6	洛中洛外図など中世の京都が描かれた史料を用いて、京都の祭礼の意味を考察した一冊。
18	東北モノローグ	いとう せいこう／著	河出書房新社	K369.3	2024.2	東日本大震災から10年以上が経ち、語り手、報道者、ボランティアなどそれぞれの震災とそれからの声をまとめた一冊。米沢で続けられている「きつさ万世」の活動の収録あり。
17	民法3	我妻 榮「ほか」／著	勁草書房	K324	2024.1	米沢出身の民法学者・我妻榮らが著した「民法」の改訂5版。重要判例等大幅に追加している。
16	やまがた景観物語 100	山形県 県土整備部 県土利用政策課／監修	リンクス出版	K291.2	2024.2	山形県の数ある自然景観や町なみのうち、おすすめの場所として「やまがた景観物語」おすすめビューポイント100を選定、本書はそのガイドブック。歴史や周辺の施設も紹介。
15	米沢 鶴岡 酒田 コミル山形 蔵王	JTBパブリッシング／編	JTBパブリッシング	K291.2	2024.7	全国各地のおすすめ観光地の魅力を紹介するガイドブックの山形版。山形県内のグルメ、お土産情報など満載の一冊。
14	47都道府県ご当地文化百科 6	丸善出版／編	丸善出版	K291.1	2024.6	「47都道府県百科」シリーズの山形県版。
13	独眼竜政宗3巻	千葉 真弓／著	プレスアート	K289.1	2024.5	都道府県それぞれの地域の特色を比較しながら解説している。2011年から2021年まで河北新報の子ども新聞、朝刊で連載された漫画「独眼竜政宗」の最終巻。関ヶ原前夜から70歳で生涯を閉じるまで、フルカラーで描く。
12	特別展 上杉茂憲	米沢市上杉博物館／編	米沢市上杉博物館	K289.1	2024.4	2024年4月20日から6月23日まで、米沢市上杉博物館で開催された特別展「上杉茂憲 最後の藩主と米沢士族」展の図録。
11	上杉謙信 中世関東武士の研究 36巻	前嶋 敏／編著	戎光祥出版	K289.1	2024.3	上杉謙信の政治・家臣・発給文書・合戦などに関する18本の論考と謙信に関する研究動向と展望をまとめた総論を収録。その実像に迫る。

No	書名	著者名	出版社	分類記号	出版年	内容等
30	イザベラ・バードと侍 ボーイ	植松 三十里 著	集英社	K913.6	2024.2	イギリスの冒険作家イザベラ・バードと日本におけるその通訳・伊東鶴吉の北国の旅を描いた歴史小説。
29	新陰の大河	上田 秀人 著	小学館	K913.6	2024.4	戦国時代の兵法家にして、剣聖と讃えられた上泉信綱。その生涯に注目した時代小説。
28	軒猿の娘	岩室 忍 著	中央公論新社	K913.6	2024.6	上杉謙信に仕える女忍者・逆鶴は密命を受け、織田信長殺害のため接触を図り…。戦国を舞台にした時代小説。
27	好きでも嫌いなあまのじゃく	岩佐 まもる 著 柴山 智隆 原作	KADOKAWA	K913.6	2024.4	から始まる青春ファンタジー。
26	かんぱんのないコーヒーや	かめおか あき こ 著	ほるぷ出版	K91	2024.5	看板の無いコーヒー屋のコーヒーに心奪われ、コーヒーを極めようと試行錯誤するオオカミくんのお話。米沢市出身の絵本作家・かめおかあきによるコマ割り絵本。
25	ヒモトレ	小関 勲 著	日貿出版者	K780.7	2024.3	2014年に発売された同著『ヒモ付き縮めるとカラダは動き出す！ヒモトレ』の新装改訂版。ヒモを使ったトレーニングを、著者と同じく米沢出身であるウメチギリのちぎり絵で表現している。
24	ラズウェル細木の酔いどれ自伝	ラズウェル細木 著	平凡社	K726.1	2023.11	米沢市出身、『酒のほそみち』作者のエッセイの自伝。特別描き下ろし漫画6Pに加え、漫研時代の作品など貴重な資料も掲載した、ファン必見の一冊。
23	銀河鉄道の夜4	宮沢 賢治 原作 ますむらひろし 漫画	風呂猫	K726.1	2023.10	米沢市出身の漫画家・ますむらひろしによる宮沢賢治『銀河鉄道の夜』の新コミカライズ最終巻。
22	ナゾの境界駅探訪	鼠入 昌史 著	イカロス出版	K686.2	2023.12	人の都合により決められる境界。鉄道における境界である駅はどのような意図・考えがあり、そこになったのだろうか。境界駅と駅のある町を写真で紹介し、考える一書。米沢市の峠駅など掲載。
21	TOKYO名建築案内	山内 貴範 著	朝日新聞出版	K521.8	2024.6	東京にある国宝・重要文化財建築のデータを網羅。米沢市出身の建築家・伊東忠太設計の「築地本願寺」など掲載。

法人賛助会員名簿

(令和六年十一月二日現在)

公益社団法人米沢有為会の主旨にご賛同し、賛助会員としてご支援ご協力をいただきありがとうございます。ごぞいます。

東京支部

(有)アルックス

舟寿し

くさかり小児科

(株)向洋アドシステム

(有)大雪インテリア

(代表者 敬称略)

宮坂孝夫

深澤和子

草刈章

金子晃司

岡本葵

米沢支部

相田建設(株)

(株)小嶋総本店

置賜建設(株)

(株)丸定

(代表者 敬称略)

相田晃輔

小嶋健市郎

川野敬太郎

佐藤良喜

さの医院

中條医院

若松工業(株)

(財)宮坂考古館

鉄砲屋町町内会

精英堂印刷(株)

(株)タカハタ電子

(株)羽陽印刷

(株)山形新聞社米沢支社

東北警備保障(株)

米沢ヤクルト販売(株)

田中クリニック

米澤信用金庫

(株)さらやか銀行米沢支店

廣居建設(株)

(株)山形銀行米沢支店

石橋医院

山岸草木工芸(株)

(株)本多建設

佐野隆一

中條明夫

片倉尚

宮坂直樹

渋谷賢一

安部幸裕

磯野文久

石田一郎

松田直樹

武田誠一郎

佐藤大介

田中雄二

加藤秀明

鈴木誠

廣居誠

菊地智

石橋正道

山岸幸一

本多作之助

佐々木隆一 司法書士事務所	佐々木隆一
(株) 荘内銀行米沢中央支店	渡邊 敦 広
(株) 平山孫兵衛商店	平山 順 一
(株) 米沢牛 黄木	黄木 修太郎
村正運輸(株)	村山 正博
(株) ナウエル	酒井 登
(株) 川島印刷	川島 良 範
(株) タスクフーズ	宮坂 宏
(株) 上杉コーポレーション	遠藤 勲
(株) データシステム米沢	太田 正 敏
金子建設工業(株)	金子 尚 人
米木建設(株)	前山 郁 朗
(株) 青葉堂印刷	中村 啓 二
大田建設(株)	太田 政 往
(株) エービーエム	赤間 俊 明
(株) 後藤組	後藤 茂 之
ハイメカ(株)	横山 千 広
(株) 村山商工	村山 順 一
(株) 天元台	山田 長 一

ジーエスデザイン(株)	福崎 真知子
東亜熱研工業(株)	増村 泰 人
(有) HYOコーポレーション	兵庫 等
(株) 小島洋酒店	小島 長五郎
(株) ニューテックシンセイ	乗原 晃
(株) 我妻組	我妻 敬 太
我妻建設工業(株)	我妻 弘 一
吉田建設(株)	吉田 浩 人
浜理P.F.S.T(株)	渡部 輝 良
(有) 山形工房	梅津 雄 治
株ササキ	佐々木 清 彦

仙台支部

仙台環境科学(株)

(代表者 敬称略)
加藤 啓 二

- ・東京支部 五社
- ・米沢支部 五十三社
- ・仙台支部 一社
- 合 計 五十九社

公益社団法人

米沢有為会役員名簿

令和六年十一月現在

名誉会長
名誉会員

会長・代表理事
副会長・代表理事
理事

監事
諮問委員
(東京)

上杉邦憲	下條泰生	須貝英雄	大滝則忠	平山英三	加藤国夫	伊藤和夫	小野庄士	加藤正憲	工藤美知尋	菊地隆雄	須貝利喜夫	鈴木修治	鈴木浩美	滝口政彦	田村邦夫	土屋宏	手塚宮雄	横井宮博	近野久左門	松野祐樹	赤井淳一
------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	-------	------	------	------	------	-----	------	------	-------	------	------

相談役

飯沼俊男	遠藤光広	大武清夫	加川巖	金子晃司	金子周治	草刈章	劉野耕	佐藤陸三	佐藤好明	高橋節子	米沢瀧新	田林一	丹野眺	仁健	西澤英一	羽村純	隅弘	山和宣	坂宏博	石房	山木勇郎	大木修一	小森力雄
------	------	------	-----	------	------	-----	-----	------	------	------	------	-----	-----	----	------	-----	----	-----	-----	----	------	------	------

理事役割分担

○総務部

部長 五雲寺卓卓	事務局担当 加藤正憲	事務局担当 五雲寺卓卓	同 参事 倉田和子	同 参事 田中勝	同 参事 村田絹代	財務担当 五雲寺卓卓	施設担当 菊地隆雄	同 参事 高瀬勝	組織担当 (東京) 工藤美知尋	組織担当 (米沢) 伊藤和夫	組織担当 (仙台) 鈴木修治
----------	------------	-------------	-----------	----------	-----------	------------	-----------	----------	-----------------	----------------	----------------

佐藤毅	中條仁	米野宗禎	種村信次
-----	-----	------	------

内閣府連絡担当

○育英事業部

部長 小野庄士	副部長 伊藤和夫	募集担当 手塚宮雄	奨学金担当 菊地隆雄	学生寮 (東京) 担当 菊地隆雄	学生寮 (仙台) 担当 滝口政彦
---------	----------	-----------	------------	------------------	------------------

○地域振興部

部長 横井博	理事 伊藤和夫	参事 伊藤和夫	安部徹	岸部徹	齋藤久	同 同 長谷川健	同 同 宮坂宏	同 同 山木勇一郎
--------	---------	---------	-----	-----	-----	----------	---------	-----------

○文化広報部

部長 手塚宮雄

副部長 山口正廣
 H.P.担当 須貝利喜夫
 参事 梅津幸保
 同 石田和弘
 同 佐藤孝市
 同 近野久左工門
 ○文化大学
 名誉学長 大滝則忠
 学長 加藤国雄
 運営子ム 五雲寺卓
 同 加藤正憲
 同 藤美知尋
 同 手塚宮雄
 ○東京支部長 工藤美知尋
 ○米沢支部長 近藤洋介
 ○我妻榮記念館担当 土屋宏
 ○仙台支部長 鈴木修治
 ○北海道支部長 田村邦夫
 ○教育委員 岸順一
 齋藤裕司

○産業振興委員 高橋善彦
 岩倉由美
 五雲寺卓
 横井博
 長谷川健
 学生寮興讓館
 ○東京興讓館 館長 菊地隆雄
 副館長 加藤国雄
 運営子ム 五雲寺卓
 同 村田絹代
 寮母 福田富子
 ○仙台興讓館 館長 滝口政彦
 副館長 長澤健一
 寮母 桶川幸江
 ○我妻榮記念館 名誉館長 我妻学
 顧問 土上村学
 館長 佐藤敏孝
 事務長 藤宏

東京支部役員
 支部長 工藤美知尋
 副支部長 川合勝雄
 理事 加藤正憲
 太田勇
 加藤雄
 藤田国雄
 菊地隆雄
 倉田和子
 五雲寺卓
 齊藤三紀
 佐藤好明
 須貝利喜夫
 田中勝夫
 濱田吾愛
 宮坂孝夫
 大瀧達朗
 松崎祐樹
 同 本多和彦
 同 安部敏
 同 佐野隆一
 同 高橋節子
 同 曾根伸之
 同 佐藤哲
 同 岩井洋司
 同 井上麻矢
 同 遠藤弘隆
 同 神野民夫
 同 金藤泰伸
 同 佐藤孝夫
 同 佐藤毅夫
 同 藤山国毅
 同 村石房夫
 同 山田幸生
 同 山田幸生

相談役 小森力雄
 石原俊一
 米野宗禎
 安部壮一郎
 安部洋司
 安部洋司
 井上麻矢
 岩井洋司
 遠藤弘隆
 神野民夫
 金藤泰伸
 佐藤孝夫
 佐藤毅夫
 藤山国毅
 村石房夫
 山田幸生
 支部長 近藤洋介
 副支部長 (理事) 伊藤和夫
 (理事) 横井博夫
 理事 (理事) 伊藤和夫
 (理事) 安部敏夫
 理事 大貫英一

監
事

(常務)

安横横山山樋長手土種田武高曾鈴菅齋齋近近小下岸菅柿小
部山井口木口川塚屋村中田橋根木野藤藤近野藤島條野崎野
千正勇哲宮信明誠節伸智友隆藤久左工門洋長邦順紀悦庄
徹広博廣郎弘健雄宏次子郎子之実幸久夫介郎彦一生子士

顧
問

諮問委員

仁高佐嵐白内渡船福手神齋後後川金奥漆梅岩井稲伊石青宮
科梨藤岩谷部山崎塚保藤藤島沢村山沢倉上村藤田木坂
洋忠誠正孝重秀秀真知雅裕利良政和由榮範和和
一博七人夫治丈一子正寿司仁明範真秋裕男美子修夫弘人宏

相 監
談 事
役 事

中笹加平長田滝加大大今遠塚鈴
條木藤吹澤林口川武井藤原木
邦啓隆健眺政清良光保修
仁明二一一彦巖夫宗広夫治

理 副支
事 支部長

仙台支部役員

参 相
事 談
役

(事務局) (事務局) (事務局)
春青遠米安增加茂
日木藤部村藤藤木
美繁秀浩三十眞英
江江行一二十郎力夫樹晶

副会
会长

大滝則忠
甲(仙台OB)
上野和子
(札幌OG) 國信

OB会
興讓館寄宿舎

諮問委員

孫関鈴加須芳丹上佐田
田木藤藤賀野野藤村
二吉三秀秀和俊邦
敏郎行雄進樹久子一夫

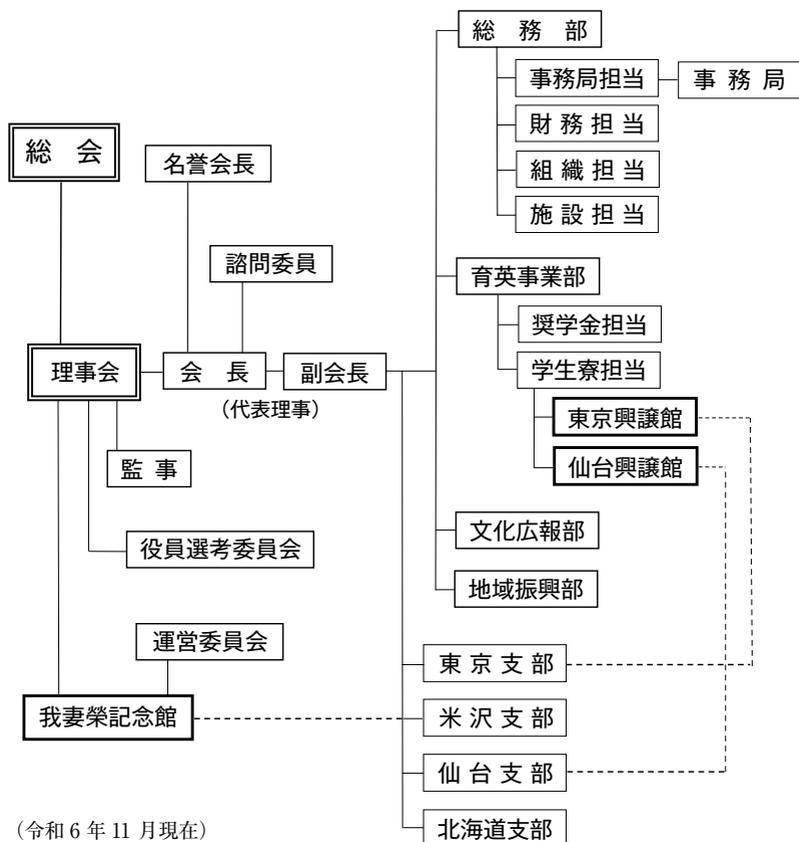
理 事

副支
支部長

北海道支部役員

公益社団法人 米沢有為会 組織一覽図

(意思決定し業務執行を分掌する理事会体制)



本部・各支部事務所等所在地

本部 電 二八二一〇〇〇四

東京都調布市入間町一丁目三六番地
東京興讓館内

電・FAX (03)(3309) 33011
ホームページ (<http://www.yonezawa-yuukai.org/>)

東京支部 電 二八二一〇〇〇四

東京都調布市入間町一丁目三六番地
東京興讓館内

電・FAX (03)(3309) 33011

米沢支部 電 九九二一八五〇一

山形県米沢市金池五丁目二一五
米沢市役所内 秘書課内

電 (0238)(22) 5111 FAX (0238)(22) 5541

仙台支部 電 九八〇一〇八七四

宮城県仙台市青葉区角五郎二一六一二一
仙台興讓館内

電・FAX (022)(222) 4790

北海道支部 電 〇六〇一〇〇六一

北海道札幌市中央区南一条西八丁目 T G 札幌ビル7F
㈱日建社内 田村邦夫

電 (011)(271) 2585

米沢有為会設置施設

東京興讓館 電 182-0004 東京都調布市入間町1-36
電・FAX (03)(3309) 33020

仙台興讓館 電 980-0874 宮城県仙台市青葉区角五郎2-6-21
電・FAX (022)(222) 4790

我妻榮記念館 電 992-0045 山形県米沢市中央3-4-38
電・FAX (0238)(24) 2211

HPアドレス <http://www.wagatumasakae.com/>

米沢有為会からのお願い

会員募集と広告掲載について、会員の皆様のご協力をお願いいたします。会員については各支部とも高齢化が進んでおり世代交代が進んでいませんので、新たな会員の募集をお願いいたします。

正会員 年会費 七、〇〇〇円

賛助会員個人 年会費 三、〇〇〇円

賛助会員団体 年会費 一〇、〇〇〇円以上です。

よろしくお願いいたします。

また広告の掲載ですが

A五版一ページ二万円、半ページ一万円です。各支部長、事務局に連絡くださるようお願いいたします。

☆各支部におかれましては財源確保にご協力お願いいたします。

☆広告掲載法人の皆様には、当会事業の折PRすることもできますので、チラシなどご提供いただければ対応いたします。

置賜地区の自治体所在地

米沢市

〒992-8501 米沢市金池五丁目2番25号 ☎0238-22-5111

長井市

〒993-8601 長井市栄町1番1号 ☎0238-84-2111

南陽市

〒999-2292 南陽市三間通436番地の1 ☎0238-40-3211

高島町

〒992-0392 高島町大字高島436番地 ☎0238-52-1111

川西町

〒999-0193 川西町大字上小松977番地1 ☎0238-42-2111

小国町

〒999-1363 小国町大字小国小坂町二丁目70番地 ☎0238-62-2111

白鷹町

〒992-0892 白鷹町大字荒砥甲833番地 ☎0238-85-2111

飯豊町

〒999-0696 飯豊町大字椿2888番地 ☎0238-72-2111

後記

☆皆様こんにちは。『米沢有為会々誌』復刊第七十四号をお届けいたします。今年もお忙しい中ご寄稿いただきました皆様には心から感謝申し上げます。上杉邦憲名誉会長、平山英三会長の御挨拶をはじめ、本部や支部、興譲館寮、我妻築記念館などの地道な活動の軌跡を継続して記録に残すことは、極めて重要な任務と考えております。また、今年度も置賜三市五町から多彩なおたよりをいただきました。各市町のご担当者には厚くお礼申し上げます。それぞれ特色ある行事やまちおこし、経済の活性化などに鋭意取り組まれている姿をご覧いただければ幸いです。

☆今年度の定時総会後の文化講演会は、名誉会長の上杉邦憲氏から「宇宙とともに六十年　そして未来へ」と題して、宇宙航空研究開発に打ち込まれた六十年間の歩みをたつぷりとお聞きしました。私は美しく幻想的な画像を見ながら、宇宙は、私たちが日々生きている地上とは全く異次元の、まさに想像を絶する壮大な別世界であると感じた次第です。詳しくはぜひご講演録をご覧ください。

☆また、置賜地区高校生小論文コンテストは七回目を迎え、毎年地域の将来や自分の生き方を考えて発表する場として定着し、多くの優れた小論文をいただいております。少子高齢化が一段と進む中、当事業が、地域の若者流出に歯止めをかけ、今後の地域活性化や若者が活躍できる場を選択する契機になればと願っています。☆さて、本会の根幹をなす最も重要な事業は育英事業で、奨学金制度と学生寮の運営ですが、最近両方とも応募者が減少してきて、その対策が大きな課題となっています。こうした背景には、育英事業部の報告にもあるように、日本学生支援機構や民間財団などが貸与型奨学金の他に給付型奨学金を増やしつつあること、大学の都心への回帰や学生の共同生活を選好傾向などがあります。そのため、制度改革に向けた検討が開始されました。また、東京と仙台の興譲館寮の入寮生減少についても、寮問題対策会議で検討し、部屋の個室化や洋式トイレへの交換、エアコンの設置、厨房洗面台などの改修や設備の整備を行ってきました。さらには、高校での保護者説明会の他に、You Tubeやケーブルテレビで安い寮費で美味しい食事、快適な寮生活の紹介や寮生の感想などをPRしてきました。今後とも、置賜地区や県内外出身者が一人でも多く応募し、先輩・後輩の寮生活を通して、学生時代に切磋琢磨し深化させていく学びや思い出に残る楽しい行事、人とのつながりを経験し、将来の人生に備えてほしいと切に願っております。

☆二年続きの猛暑の夏も長く居座った挙句ようやく過ぎ去り、例年より遅く暖かい秋の紅葉も瞬く間に終わりを告げて、年末を迎えた置賜盆地を包む山々は、既に純白の雪化粧をしています。戦争や災害、物価高騰を選挙など国内外ともに激動の年が明け、新たに二〇二五年を迎えますが、この一年が皆様にとってもっとも良い年になりますようご祈念申し上げます。
(文化広報部長 手塚宮雄)

広告掲載企業一覧

本会の主旨にご賛同してご協賛をいただき誠にありがとうございます。

(敬称略・五十音順)

上杉観光開発株式会社
株式会社 上杉コーポレーション
株式会社 羽陽印刷
株式会社 エービーエム
株式会社 川島印刷
株式会社 小嶋総本店
株式会社 スリーウッド・プロデュース
仙台環境科学株式会社
株式会社 タスクフーズ 鯉の宮坂・宮香本舗
東北警備保障株式会社
株式会社 ナウエル
日本橋小舟町 舟寿し
株式会社 日山
株式会社 本多建設
吉野石膏株式会社
米沢牛銘柄推進協議会
米沢商工会議所
米沢信用金庫
株式会社 ワイ・エム・ピー

御祝宴や御法宴、お友達とのご会食に



上杉記念館

上杉伯爵邸

米沢市丸の内1-3-60
電話：0238-21-5121

クリーンな空間と安心をクリエイトする



総合ビル管理（警備・清掃・設備管理）



株式会社

エービーエム

本 社
〒992-0003

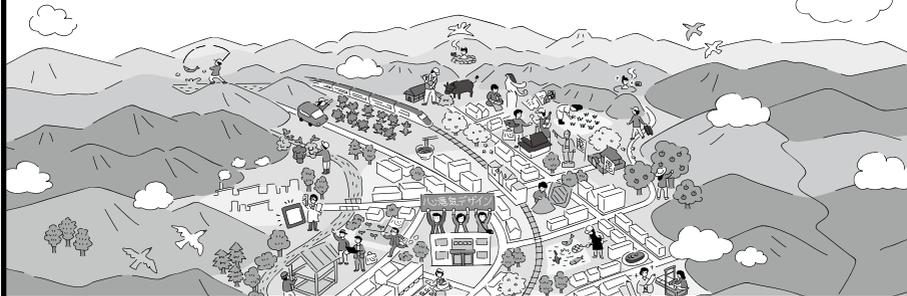
山形県米沢市窪田町窪田584-2
☎0238(37)5733・FAX 0238(37)2822

南陽営業所
〒992-0472

山形県南陽市宮内4641
☎0238(47)6511・FAX 0238(47)6523

作り手の 心意気を 見える化する

心意気とは作り手のこだわりや想い、魅力です。
良質なモノやサービスが溢れる世の中で
心意気に見える化することが、
お客さまに選ばれ続ける理由になると信じています。
長年培ってきた印刷技術と、
今も磨き続けているクリエイティブな力を使って
私たちは心意気に見える化していきます。



心意気デザイン

運営：株式会社 川島印刷

〒992-0021 山形県米沢市大字花沢221-2

Tel 0238-21-5511

受付時間 / 平日 9:00 ~ 17:00

公式サイトはこちら

<https://kokoroiki.design/>



東光関連
Website

純米酒 **東光** 醸造元
株式会社 小嶋 総本店
米沢市本町2丁目2番3号東町上通り
TEL 〇二三八(二二三八)四八四八

〇お酒は二十歳になってから

雪解け水のような透明感、繊細な味わい、
シルクのような舌触り。
原料米を十八%まで磨いた至極の雫酒。



IWC 最高金賞
「部門トロフィー受賞」
純米大吟醸部門 世界一

東光 純米大吟醸 袋吊り 十八

世界最大級のコンペティション
(IWC) インターナショナル・
ワイン・チャレンジ2024

株式会社 スリーウッド・プロデュース

テレビ番組企画制作・イベント各種
音楽出版・原盤制作・タレントプロデュース

所属アーティスト

大泉逸郎「ありがてえなあ」(テイチク) 河北町
浜 博也「ヒトリヨガリ」(テイチク) 飯豊町
奥山えいじ「会津想々」(テイチク) 尾花沢
(カラオケで唄ってください)

代表取締役
プロデューサー **木村尚武**

〒157-0064 東京都世田谷区給田1-20-10

PHONE } 03 (3309) 0768
F A X }

環境測定分析をとおして、
美しく豊かな自然の保護に力を尽くしています



計量証明事業登録

宮城県知事 第H7-001号(濃度)

仙台環境科学株式会社

代表取締役 加藤 啓二

〒980-0011

宮城県仙台市青葉区上杉三丁目3番17号

TEL (022) 263-1361

FAX (022) 263-1362

自願卒業生 (S, 47)



創業百七十余年

みやさかや



株式会社 タスクフーズ

山形県米沢市相生町7-130

TEL:0120-25-7188

水曜日定休日有ります

URL <http://www.koi-miyasaka.com>

地元に愛されて52年。
皆様の「大切」を私たちの「大切」に。



東北警備保障株式会社

山形県公安委員会認定第6号
山形県米沢市アルカディア1丁目808-17
電話 0238-29-0005
FAX 0238-29-0015
URL <http://www.next-alert.co.jp>

- 営業品目
- ・ 機械警備
 - ・ 常駐警備
 - ・ 交通誘導業務
 - ・ イベント警備（上杉まつり・花火大会など）
 - ・ 施設管理（米沢市総合公園 指定管理者など）
 - ・ 清掃業務（法人契約）

IPを使ったホームセキュリティシステム(最新式)導入！

日本橋

舟壽し

創業半世紀、日本橋小舟町で
 培われた江戸前の技が活きる
 お寿司・お刺身と共に四季折
 々の御料理がご堪能いただけ
 ます。お座敷はさまざまな個
 室、カウンター、テーブル席
 もご用意いたしております。
 大小ご宴会から御家族、ご友
 人との御会食まで幅広くご利
 用頂けます。

深澤 和子

(米沢市出身・米沢東高校昭和26年卒)



TEL. 03-3661-4569 FAX. 03-3661-0568
 〒103-0024 東京都中央区日本橋小舟町11-2 深澤ビル
<http://www.funazushi.info/>

【営業時間】 AM11:30~PM 2:30
 PM 4:30~PM10:00
 (PM9:30オーダーストップ)
 (土曜日の夜は、10名様前後で要前日予約)

【定休日】 日曜日、祝日、第四土曜日
 ※ 座敷は全席、椅子席になります



家族を愛する
 ママを応援する家。



住宅の新築

- ♥ ママ応援住宅
 - ♥ 子育て世代応援住宅
- 建替え、二世帯住宅など



リフォーム

水まわり工事など
 小さな修繕から、増改築、
 全面リフォーム(新築二世)まで

不動産 土地の売買や
 中古住宅の売買のご相談など

LIXIL 不動産ショップ 本多建設



本多建設

HPIは
こちら



☎ 0238-21-5100

〒992-0047 山形県米沢市徳町7-52

特定建設業許可番号・山形県知事許可(特-05)第500142号/一級建築士事務所登録・山形県知事登録(1104)第1715号/宅地建物取引業者免許番号・山形県知事(11)第1234号

いつも一緒に あなたのそばに



しんきん



さまざまなカリキュラムで
随時開催中!

参加無料!

ドコモ以外の方も大歓迎!

まだスマホを
持っていないでもOK!

※感染症対策のため、手指の消毒やマスクの着用、検温にご協力をお願いします。※ドコモショップ店頭または電話、WEBにて事前にお申込みください。※受講にはdポイントクラブ入会、dポイントカード利用登録、dアカウント発行が必要です。※一部有料の講座があります。

ドコモスマホ教室の参加には、事前にご予約が必要です。
ドコモショップ店頭または電話・Webにてお申込みください。

Web予約はこちら



※ご予約できる席数には限りがございます。
※教室参加時にモバイルデータ通信が発生する場合があります。
※受講にはdポイントクラブの入会、dポイントカードの利用登録、dアカウント発行が必要です。
※感染症対策のため、手指の消毒やマスクの着用、検温にご協力をお願いします。

※サイトへのアクセスにはネット通信料がかかります。
※iモードからはご利用になれません。

ドコモショップ米沢春日店

〒992-0044 米沢市春日1-3-31

 **0120-028-280**

定休日：毎月第2木曜日

営業時間：AM9:00～PM6:00



一帯共同加入
全国携帯地販売代理店協会

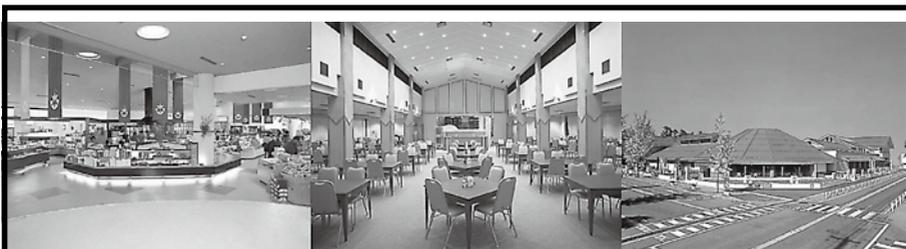
ドコモショップ南陽店

〒999-2241 南陽市郡山624-1

 **0120-090-128**

定休日：毎月第2木曜日

営業時間：AM9:00～PM6:00



グルメからお土産まですべて揃う 米沢観光のキーステーション



上杉神社御参拝や上杉博物館・上杉
伯爵邸御見学など、上杉文化エリアを
ご散策の際には、ぜひお立ち寄りください。
米沢・山形の逸品をお取り寄せできる
上杉城史苑ネットショップもご利用ください。



上杉城史苑

TEL.0238-23-0700

米沢市丸ノ内1丁目1-22

<https://uesugijoshien.jp>



株式会社

羽陽印刷



米沢市中央3丁目9-22
TEL (0238) 23-0467(代)
FAX (0238) 23-0480

企業を育て、地域を伸ばす



米沢商工会議所

YONEZAWA CHAMBER OF COMMERCE AND INDUSTRY

〒992-0045 米沢市中央4丁目1-30

TEL 0238-21-5111 FAX 0238-21-5116

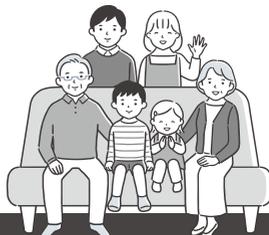
URL:www.ycci.or.jp E-mail:yone-cci@ycci.or.jp

お葬式・ご法要の準備をお考えのみなさまへ

入会金10,000円のための新しい会員制度

ナウエルメンバーズ

通夜会場 と ナウエルホール を
ご利用の方にぴったりの新プラン!



詳しくはお電話・WEBよりお問い合わせください



0120-38-9494

受付時間
9:00 ~ 17:00

Webは
こちら!



山形県置賜地方の求人・情報サイト

オキタマズカン

掲載企業募集中!



まずはサイトを
チェック!

掲載料 月額 10,000円



Facebook



Instagram

お問い合わせはこちら

株式会社ナウエル

☎ 0238-22-1234

9:00~18:00(日曜定休)

日本全国、

ホルムアルデヒド退治の

虎の巻。

タイガーハイクリンボードは
シックハウス症候群の主な原因物質の
ホルムアルデヒドを吸収・分解するので
日本全国、安心家族の「虎の巻」です。



- ◎新築・リフォーム直後や新しい家具などから発生するホルムアルデヒドを短時間で吸収・分解します。
- ◎一定の条件下で厚生労働省指針値のホルムアルデヒド濃度0.08ppmを下回る0.05ppmの数値を実現しました。
- ◎ハイクリンボードの「壁材」や「天井材」は物理的な吸着と異なり、ホルムアルデヒドを化学的に吸収・分解するため再放出されません。
- ◎タバコの煙に含まれているアセトアルデヒドの低減効果も併せ持っています。
- ◎不燃性・施工の容易性など、せっこうボードの数々の優れた性能をそのまま保持しています。

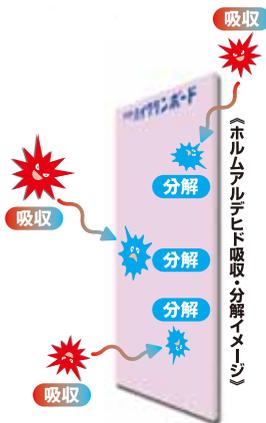
High-Clean Board

**タイガー
ハイクリンボード**

ホルムアルデヒド吸収・分解せっこうボード

(財)日本建築センターから「室内空气中の揮発性有機化合物汚染低減建材」として認定されました。(認定番号:BCJ-AIB-T-7)

(特許取得済)



YOSHINO
吉野石膏

[本社] 東京都千代田区丸の内3-3-1 新東京ビル 千100-0005
<http://www.yoshino-gypsum.com/>
 代表取締役社長 須藤 永作

明治22年12月14日創刊
 昭和27年8月2日復刊
 第74号
 令和6年12月10日発行

発行 公益社団法人 米沢有為会 会長 平山 英三
 編集 文化広報部長 手塚 宮雄
 東京調布市入間町1丁目36番地 電話・FAX 03-3309-3302
 印刷 榊羽陽印刷 山形県米沢市中央3丁目9-22 電話 0238-23-0467